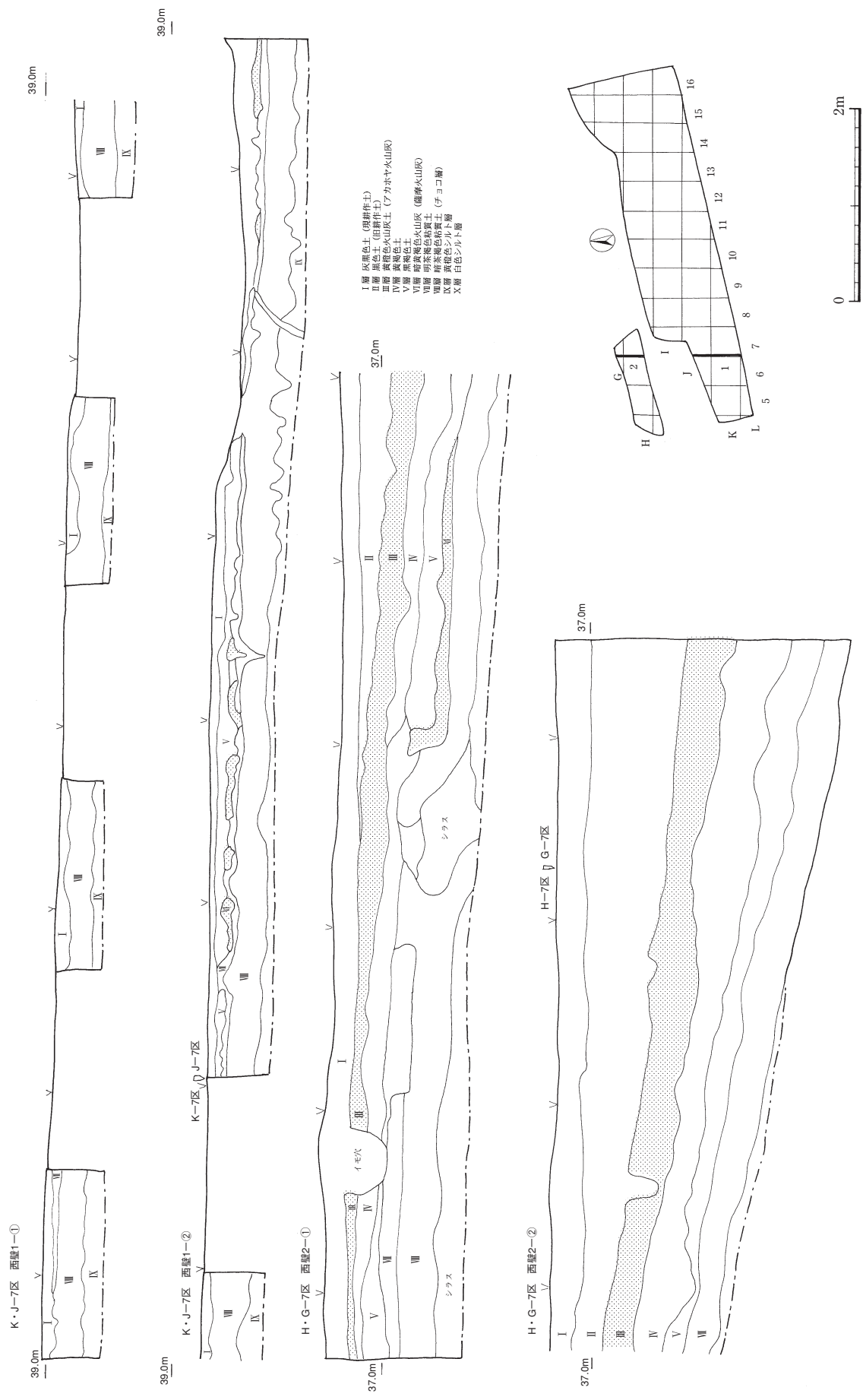


第3図 土層断面図1



第4図 土層断面図2

第2節 発掘調査の方法及び概要

発掘調査は国土座標にあわせた20×20mの調査範囲（グリッド）を設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…、西側から1・2・3…とした。

遺跡は、谷を挟んで北側は宗円堀遺跡・頭無遺跡、東側は市堀遺跡、南側は中尾遺跡に接している。標高35～43mの傾斜地に在り、北側に比高差15mの谷が入り込んでいる。

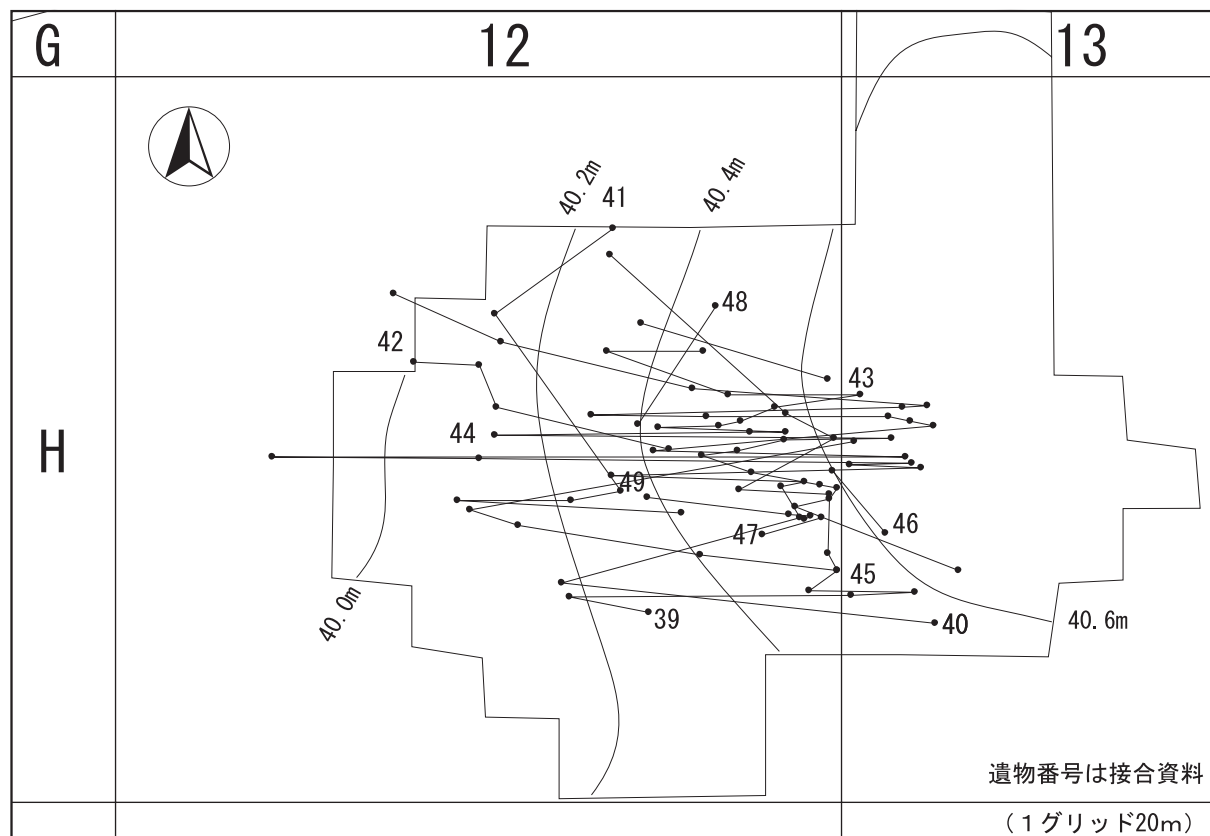
調査の結果、東側の市堀遺跡に接している所では中世の掘立柱建物跡が検出され、市堀遺跡の掘立柱建物跡群と一連のものにとらえない。Ⅱ層は削除されているため中世の遺物は出土していない。Ⅲ層からは縄文時代晩期の入佐式土器がわずかに出土している。Ⅳ層・Ⅴ層からは縄文時代早期の遺構・遺物が多く出土している。遺構は集石遺構が8基検出され、遺物は石坂式土器を中心に前平式土器・桑ノ丸式土器・下剥峯式土器・押型文土器・塞ノ神式土器等が出土している。また、石器も石鏃・石斧・磨石・石皿等豊富である。Ⅷ層からは、旧石器時代のブロックが検出され、ナイフ形石器や台形石器が出

土している。また、剥片も多く出土し、接合もできる状況である。

第3節 遺跡の層序（第3図・第4図）

頭無迫田遺跡における層序は、農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。字頭無迫田は大野原台地の南側に位置し、西側から入り込んでいる谷を含めて谷の南北に広がる。本調査を実施したのは、1号調整池により削除される範囲及び作物付帯研究施設建設に伴う範囲で、いずれも谷の南側である。調査を実施した範囲の標高を見ると南東側が43m、南西側が38m、北東側が42m、北西側が36mと南東から北西へ傾斜している地形で、北側は谷へ向けて急傾斜で、谷との比高差は15m程度である。高い部分では上層が削平されている所が多く、旧地形はもっと傾斜が強かったと思われる。

南側の大半が削平を受けⅡ・Ⅲ層は見られない。また、部分的にⅣ～Ⅵ層まで削平されている所もある。平成11年度に調査された北側では、Ⅲ層がよく残っており、谷に近い傾斜地ではⅡ層の堆積も厚く残っている。



第5図 旧石器時代遺物出土状況

第4節 旧石器時代の調査成果

旧石器時代の遺物包含層はⅧ層である。H-12・13区において石器や剥片が集中しているブロックが検出されている。また、H-13区ではチャートの礫6個がまとまって出土する集積遺構。I-12区において落とし穴と思われる土坑が検出されている。遺物はナイフ形石器・台形石器と剥片が出土している。

1 遺構 (第5図・第6図・第7図)

遺構はブロックとチャートの礫集積遺構および落とし穴が検出されている。

(1) ブロック (第5図)

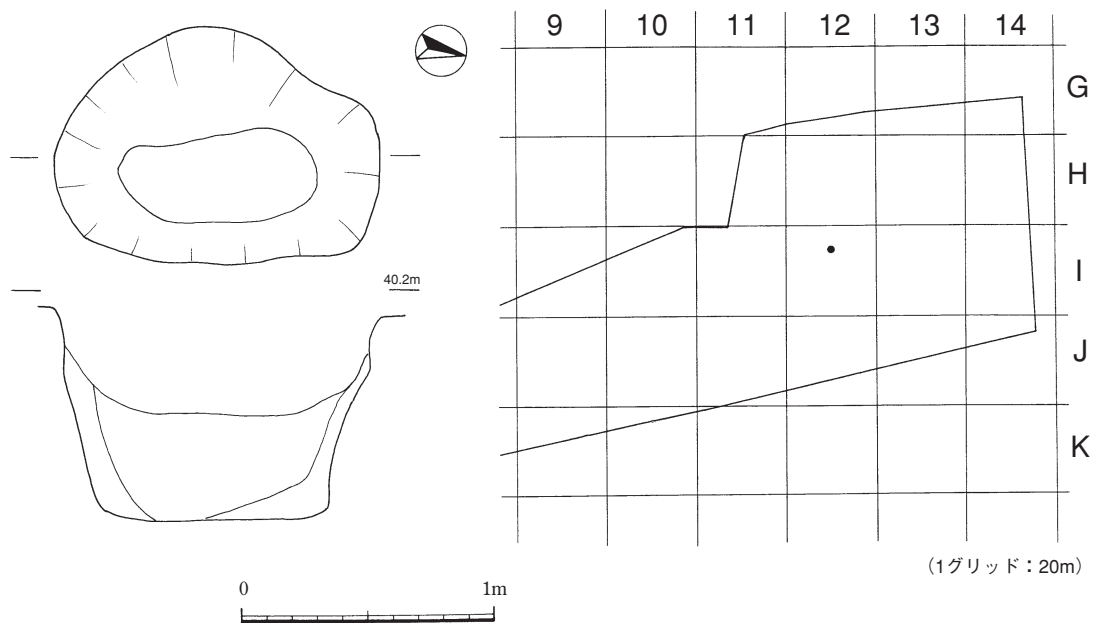
ブロックは、H-12・13区を中心に検出され、ナイフ型石器・台形石器・剥片等が集中して出土している。石材は、頁岩・チャート・玉髓・黒曜石を主体とするものである。

(2) 落とし穴 (第6図)

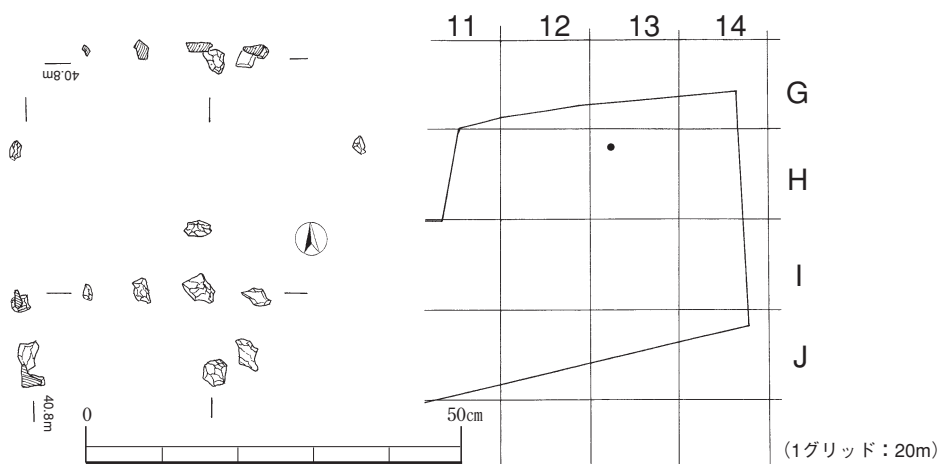
落とし穴は、I-12区のⅧ層上面において検出されたもので、長さ1.27m、幅0.95m、深さ0.8mの規模である。平面形状は略楕円形で、掘り込みはほぼ垂直に近い。また、底面に小ピットは存在しない。埋土の下部はシラス混じりのやや明るい色、上部は、Ⅷ層の暗茶褐色粘土が入っている。底面に小ピットは存在しないが形状から落とし穴と考えたい。

(3) 集積遺構 (第7図・第8図)

集積遺構はH-13区のⅧ層において検出された。約50cmの範囲に4～10cm大のチャートの礫7点と頁岩の剥片1点がまとまって出土している。1-①は石核と厚手の分割剥片の接合図である。節理面を利用して分割された可能性がある。②はその平坦な分断面を打面とする石核である。正面部分にわずかな



第6図 落とし穴



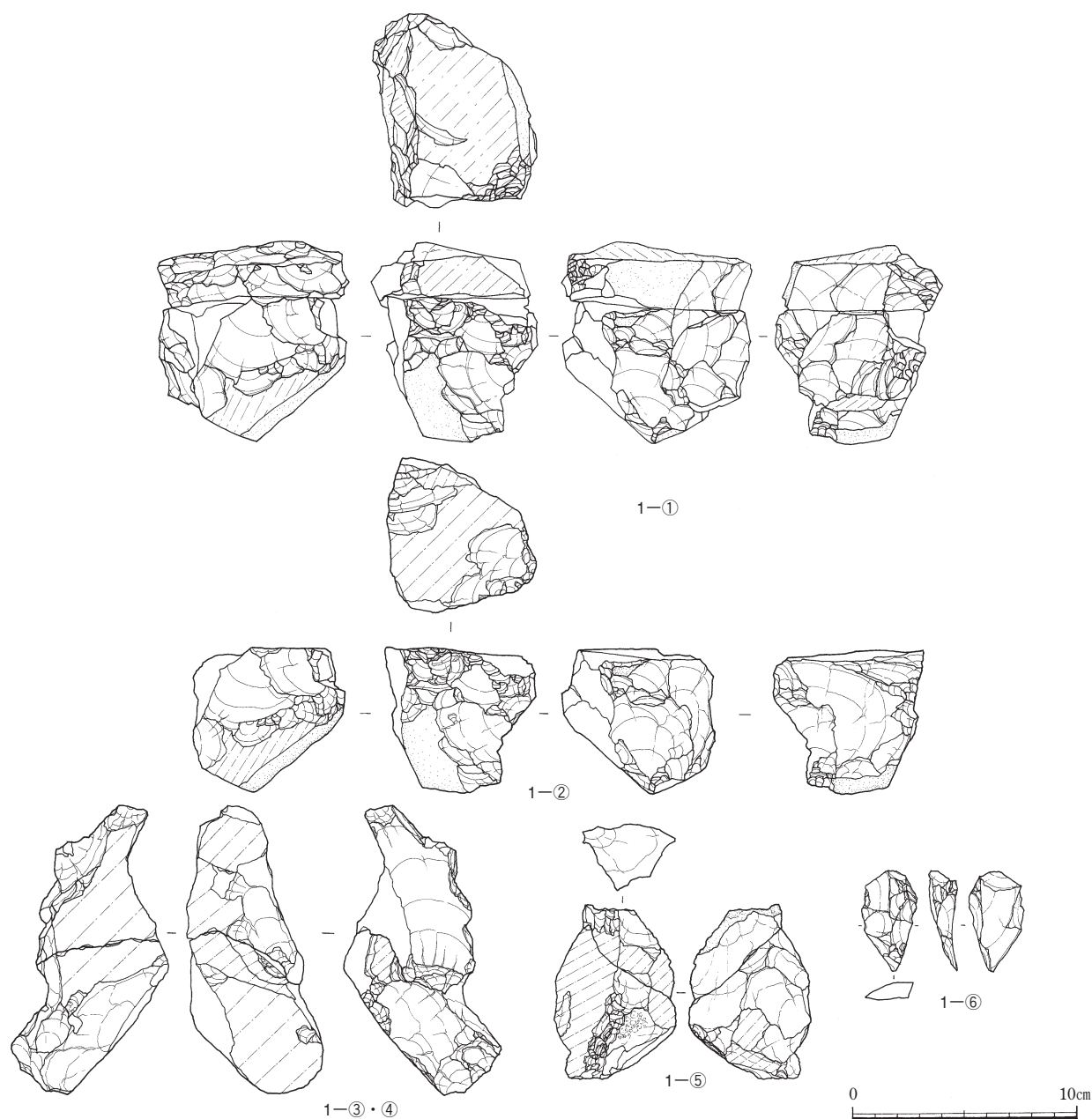
第7図 チャート集積遺構

剥離が見られるが、剥片剥離は進んでなく準備段階で止めたと考えられる。③と④の接合資料は分割された厚手の剥片が接合したものであり、石核の素材剥片である。⑤も節理面から分割された剥片の接合資料である。⑥は1の一括資料に含まれる他石材の剥片である。石材は頁岩であり部分的に二次加工が認められる。

(4) 旧石器時代の遺物 (第9図～第20図)

2～8はナイフ形石器である。2は砂岩製で比較

的大きなものであり縦長剥片の基部と片側先端部に二次加工を施したものである。先端部をわずかに欠損する。3は三船産黒曜石製の小型縦長剥片を素材とし、基部と右側縁にブランディングを施したものである。4は玉髓の剥片を使用し基部と先端部近くにブランディングを施したもので裏面にも平坦剥離が施されている。5はチャート製の小型縦長剥片を素材とし、基部にブランディングを施したものである。6・7は同一母岩と考えられる珪質頁岩の剥片

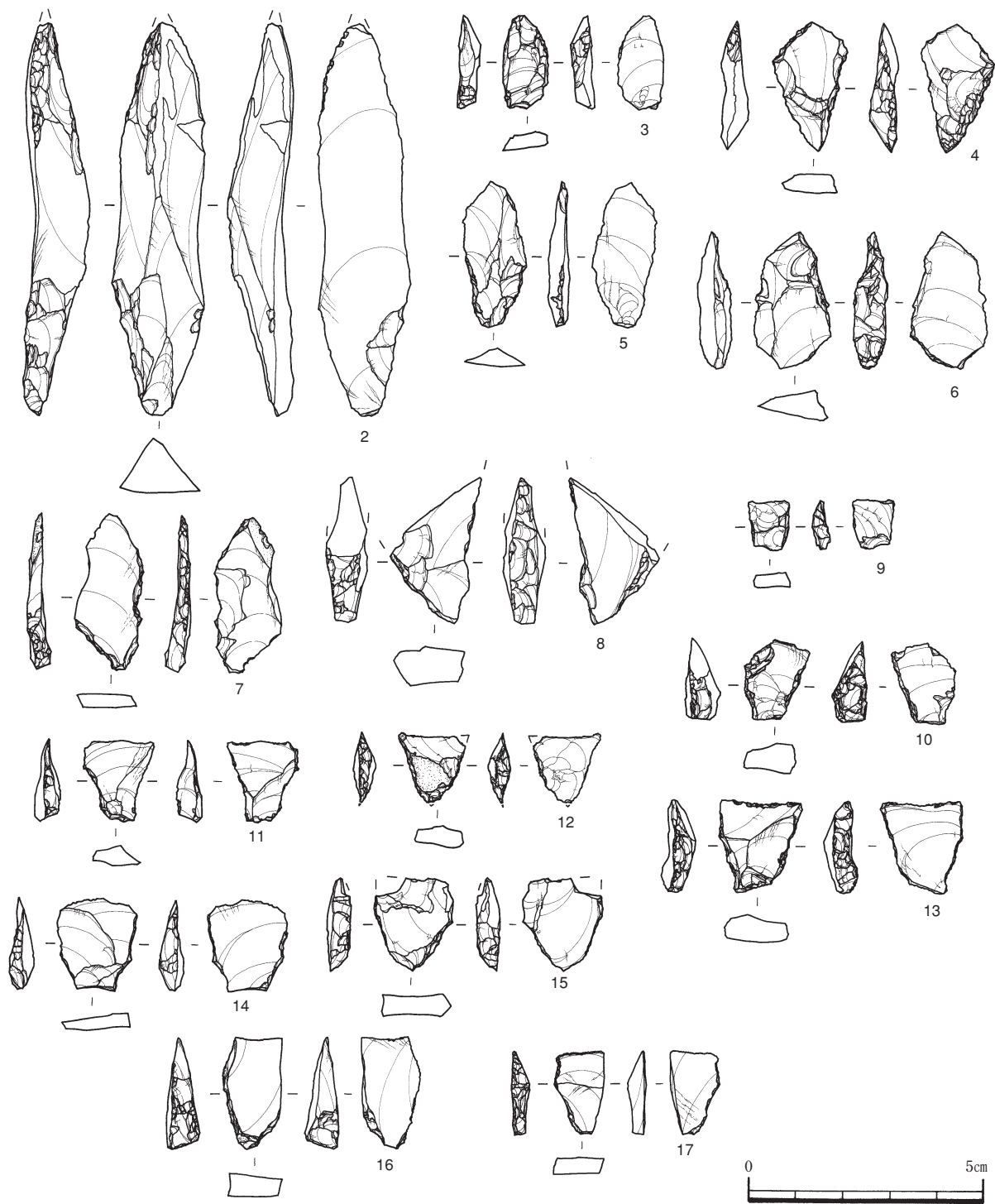


第8図 旧石器1

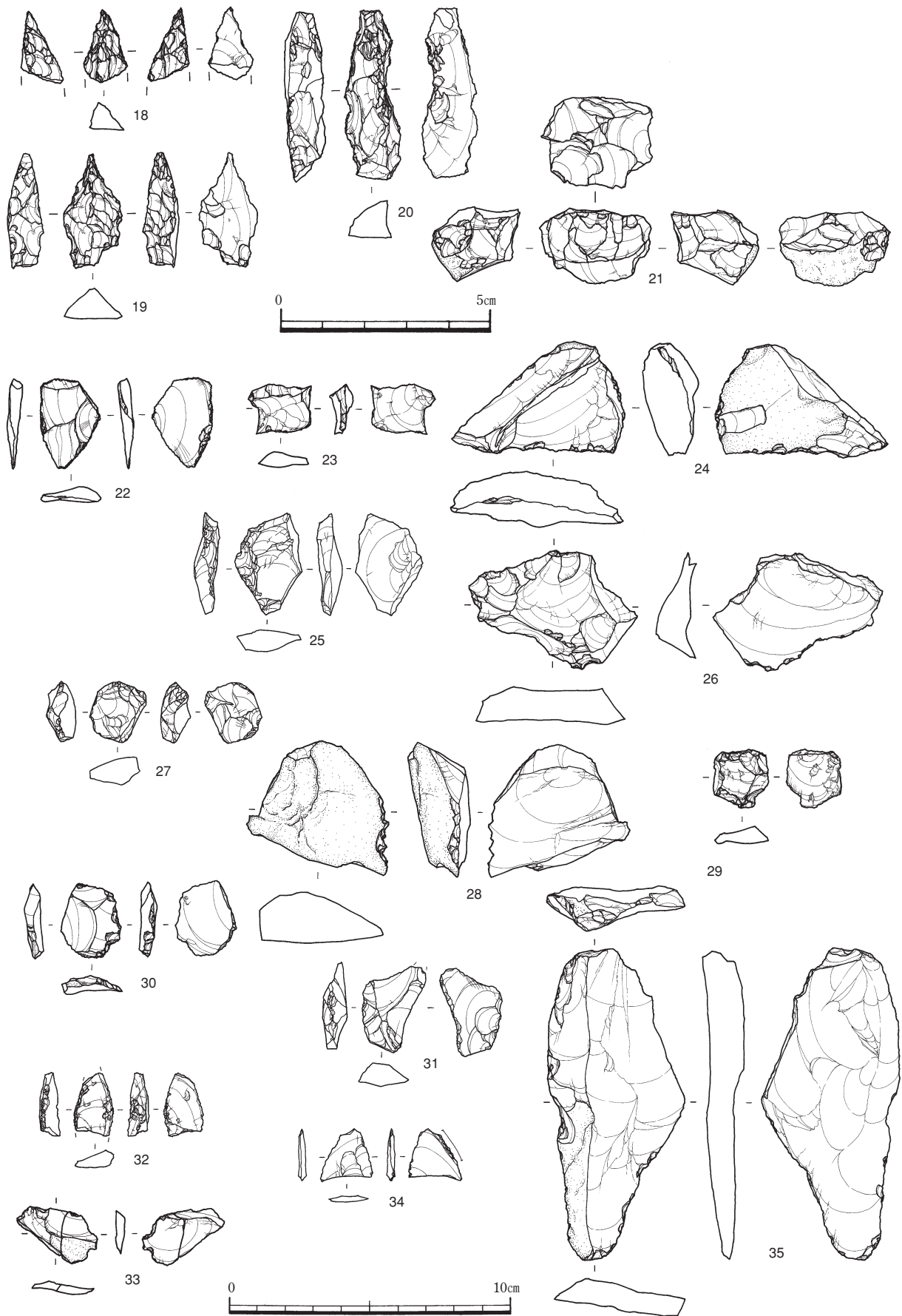
にブランディングを施したものである。8は厚手の幅広剥片を素材としてブランディングを施したものであるが先端部を欠損している。

9～17は台形石器である。9は三船産黒曜石の剥片を横位に使用し、細かいブランディングを施した部分を両側縁にしたものである。10～15は比較的小さい不定形剥片を素材として、両側縁にブランティ

ングを施し、剥片の鋭利な縁辺を上部水平方向に用いた台形石器である。このうち15は上牛鼻産黒曜石を石材としている。10・13・14は玉髓製である。16・17は11と同一母岩の珪質頁岩製であり、幅広の剥片を素材として基部から片側側縁にブランディングを施したもので、片側側縁は折断のままである。



第9図 旧石器2



第10图 旧石器 3

18～21は三稜尖頭器である。18は三船産黒曜石で両側面に整形加工が施された先端部である。19・20は上牛鼻産黒曜石の横長剥片を素材とし、二次加工により両側面を整形したものであり、稜上調整も施されている。19は基部を20は先端部を欠損している。21は石核である。上牛鼻産黒曜石製で背面に自然面が残るが、正面と両側面には剥片剥離が施されており、打面も周囲から求心状に剥片剥離が行なわれている。

22～35はスクレイパーとしたものである。22は良質黒色を呈する腰岳産に近い西北九州系の黒曜石製剥片に二次加工を施し、刃部としたものである。23は玉髄質剥片の縁辺に二次加工が認められ、2ヶ所の先端近くに細かい二次加工が認められ先端部は錐として使用されたと思われる。24は硬質砂岩の縁辺に二次加工が施されたもの。25～28は同一母岩と推定される珪質頁岩を利用して縁辺に粗い二次加工が施されたものである。29～34は三船産黒曜石や玉髄系剥片の縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。

35はシルト質頁岩製で大型の縦長剥片の一部に二次加工を施したものである。

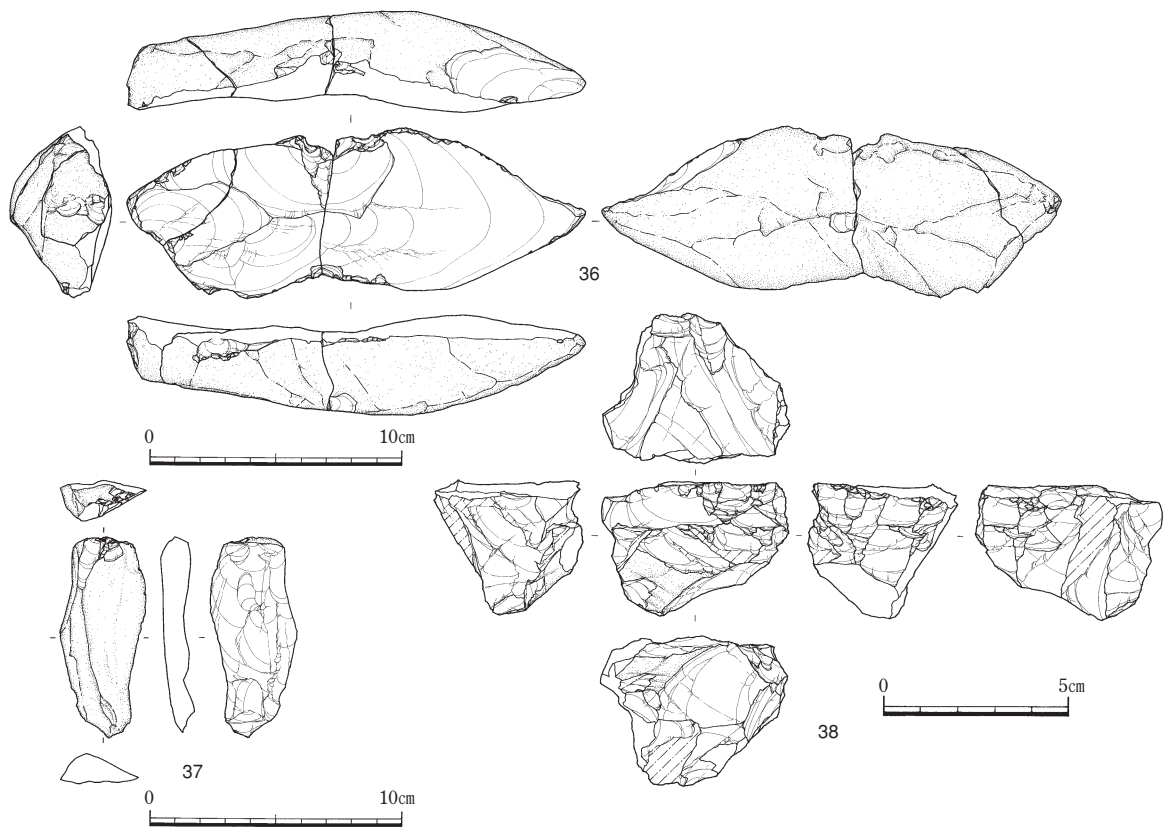
36はシルト質頁岩の大型剥片を素材とした石核である。礫皮面を打面にして剥片を剥いている。また、側面を打面にして求心状に剥離を行なっている。

37は36と同一母岩の可能性があるもので、表皮のついた最初の剥片である。

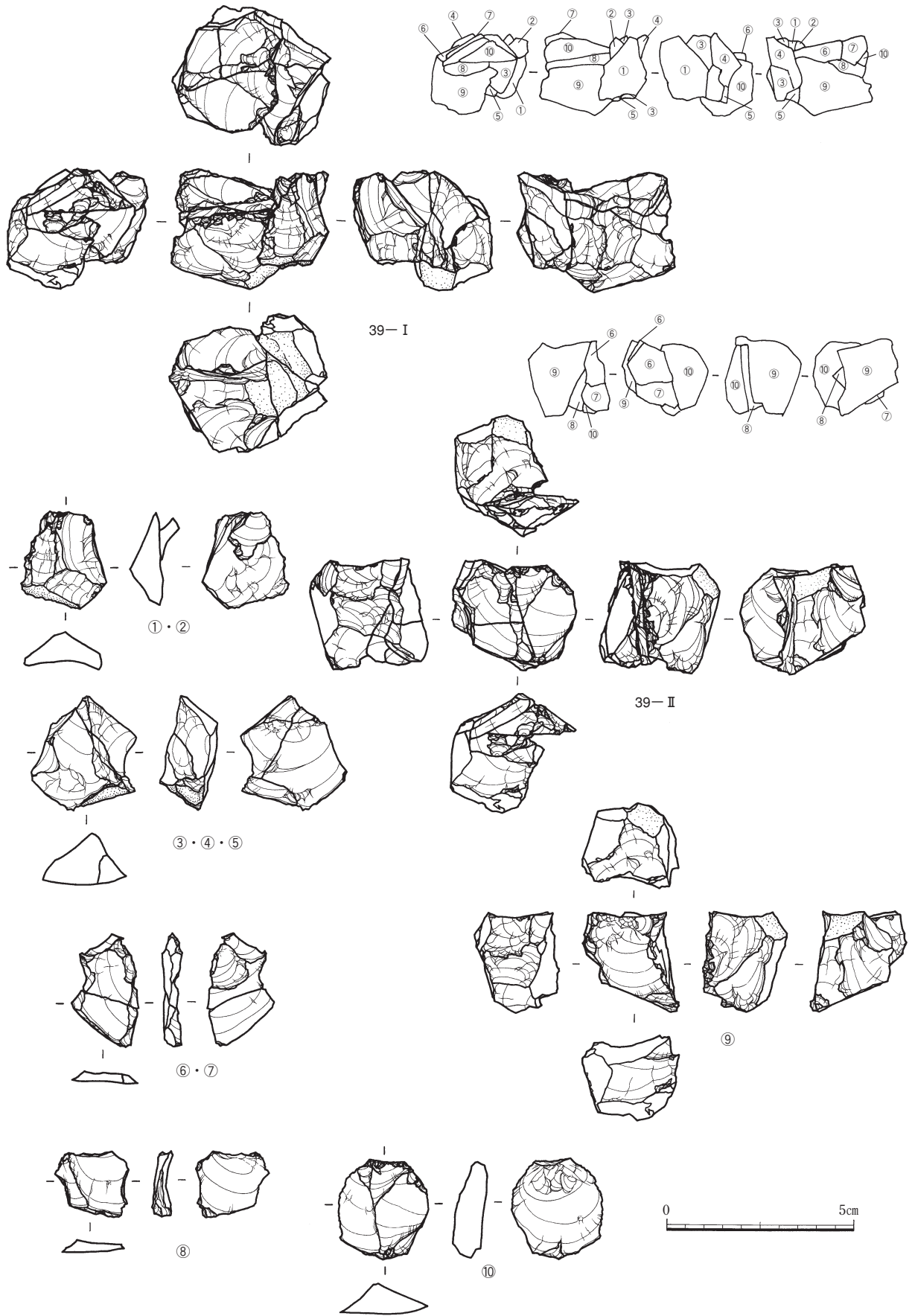
38は平坦な節理面を打面にして、そこから剥片剥離を行なった石核である。縦長剥片を意識して剥離しているが、節理の目によりステップしている。

39～49は接合資料である。39は鉄石英を石材とした接合資料である。39-Iは全体の接合関係であり、39-IIではより細かくなった段階、そして㊸が最終段階の石核であり、最後まで剥片剥離が行なわれている。このことは目的剥片がちいさくても使用可能であることを意味している。

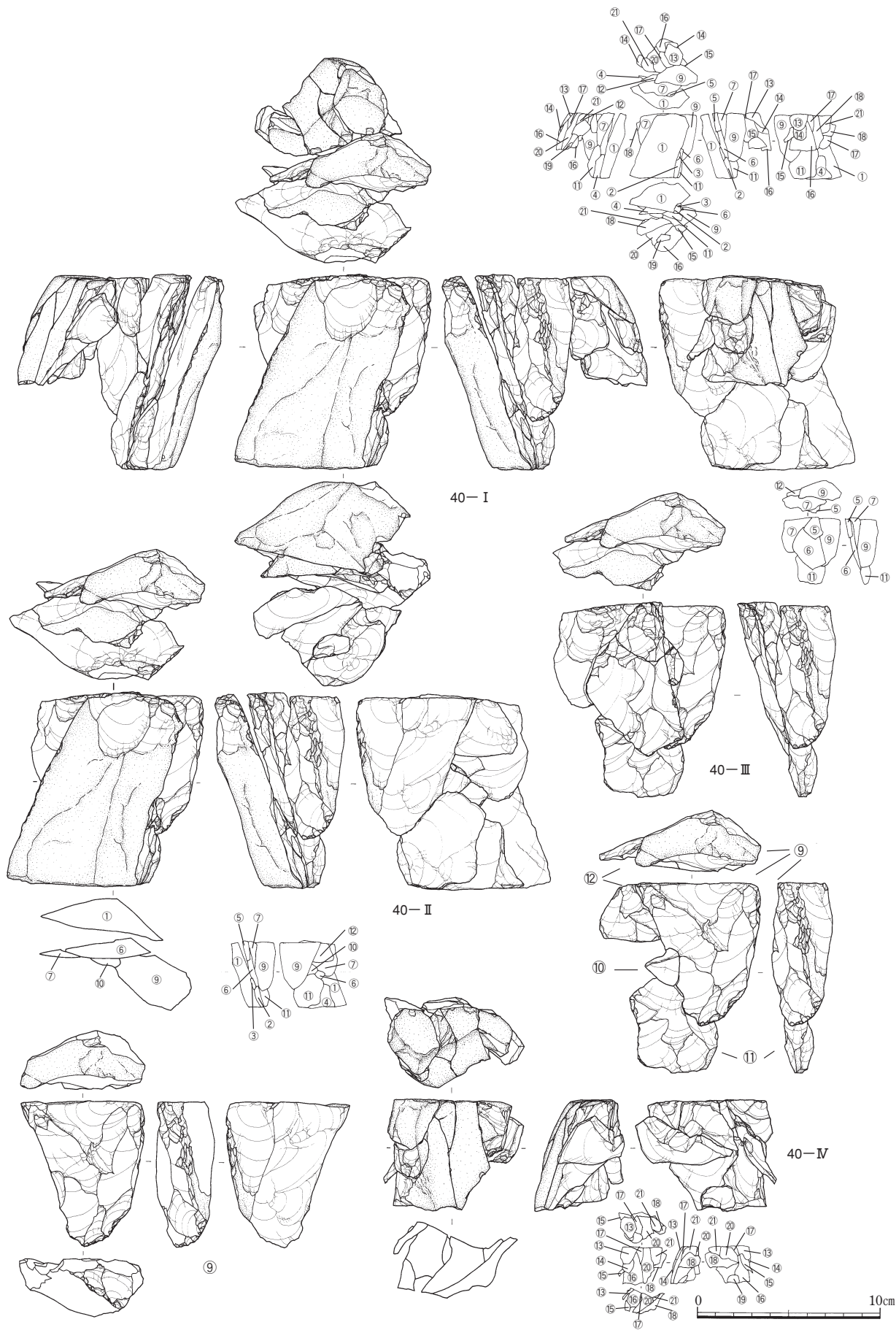
40はシルト質頁岩を石材とする接合資料である。比較的中型から大型の縦長剥片を取ることを目的としたものと考えられる。



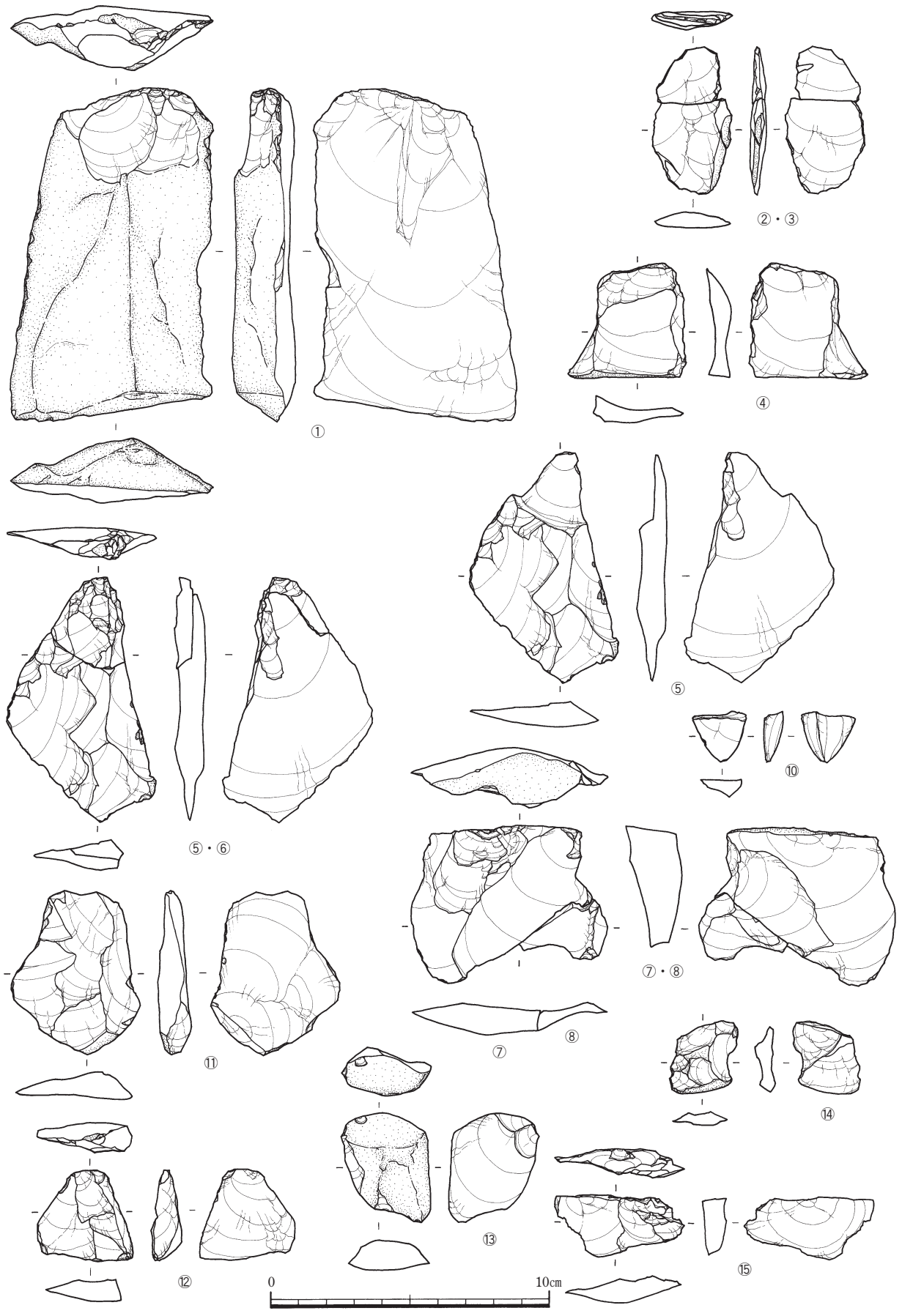
第11図 旧石器 4



第12图 旧石器 5



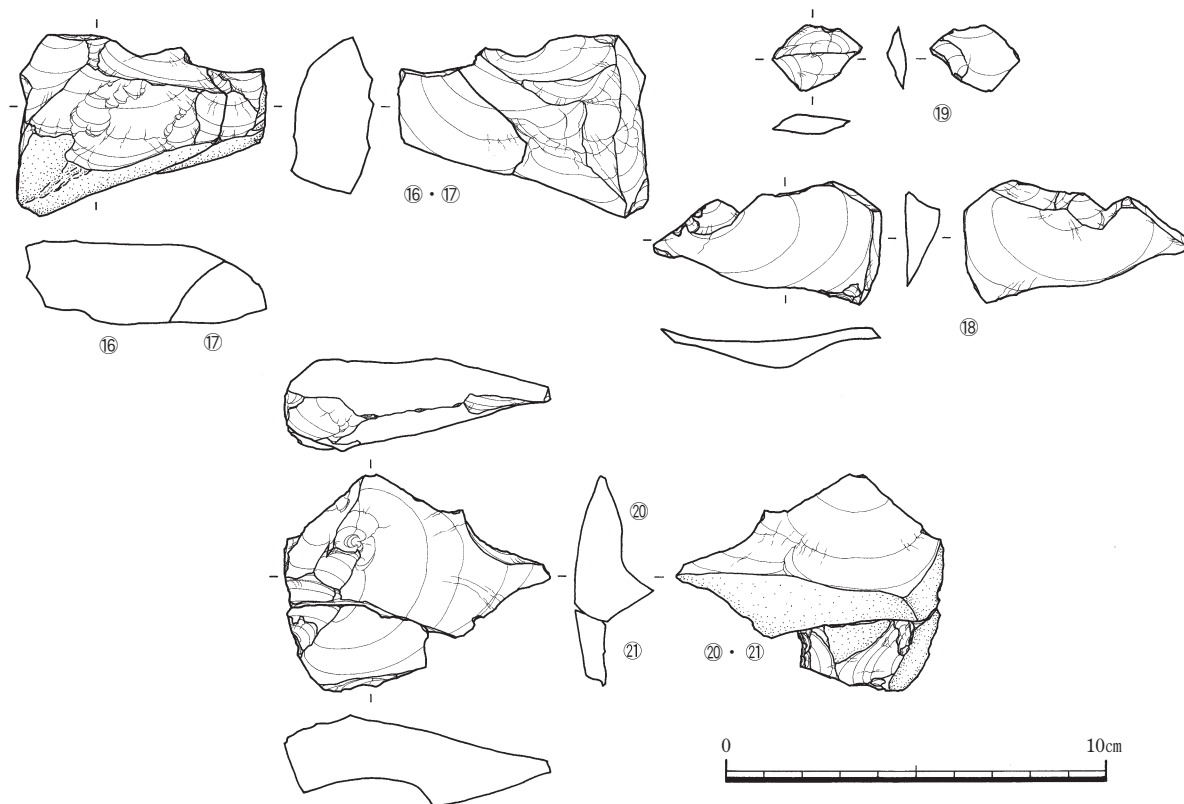
第13图 旧石器 6



第14图 旧石器 7

41～43は41と同一母岩と考えられるものである。一連の剥片剥離の一部と考えられる。このうち43は剥片とスクレイパーが接合したものである。43-②は幅広の剥片の両側縁に比較的粗い二次加工を施し刃部としている。

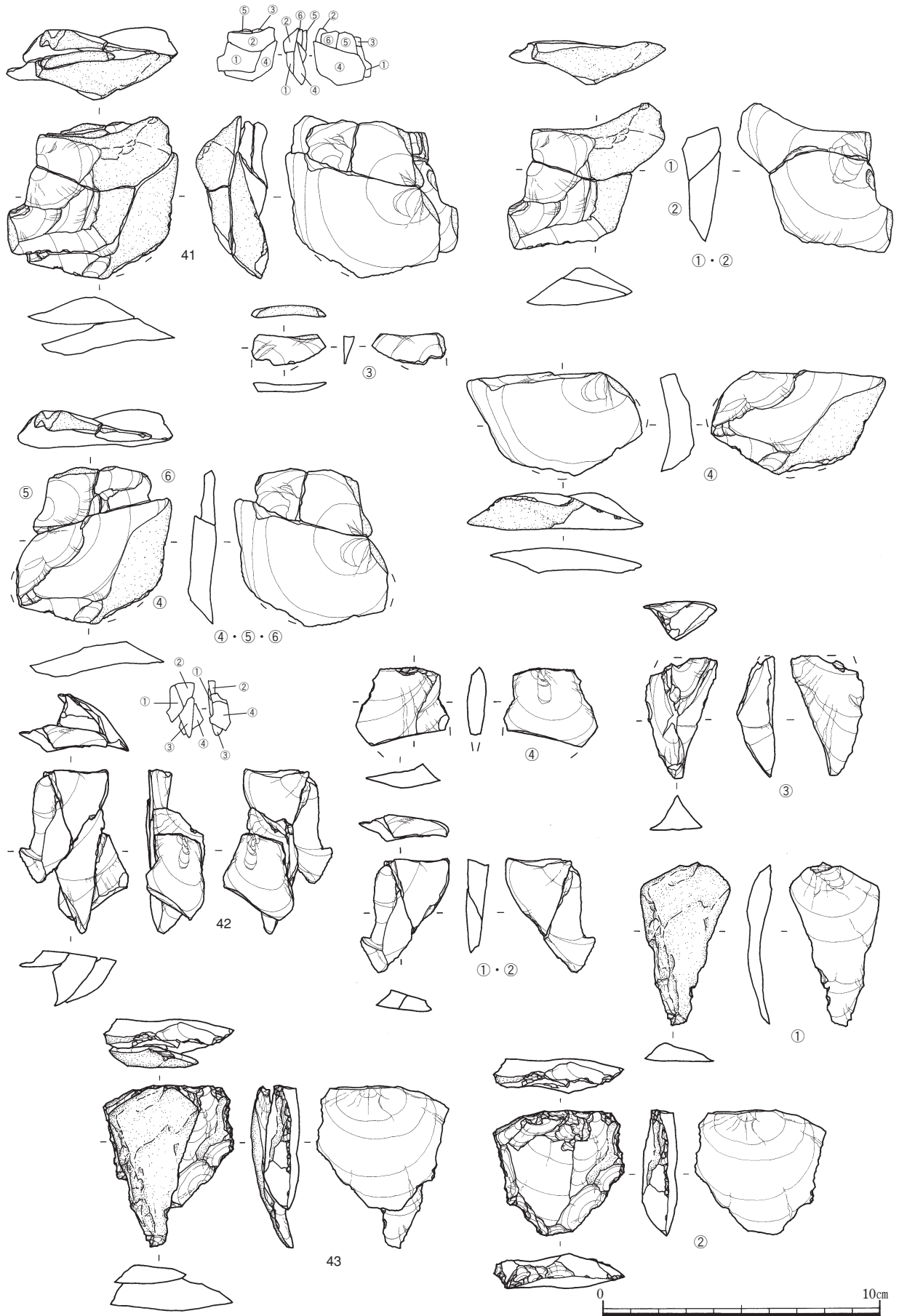
44～49は珪質頁岩を石材とするもので同一母岩と考えられるものである。石核は残されていないが一連の剥片剥離過程がうかがえる資料である。なおナイフ形石器や台形石器・スクレイパー等としてこれらの剥片が使用された同一母岩系のものが6・7・11・16・17・25～28である。



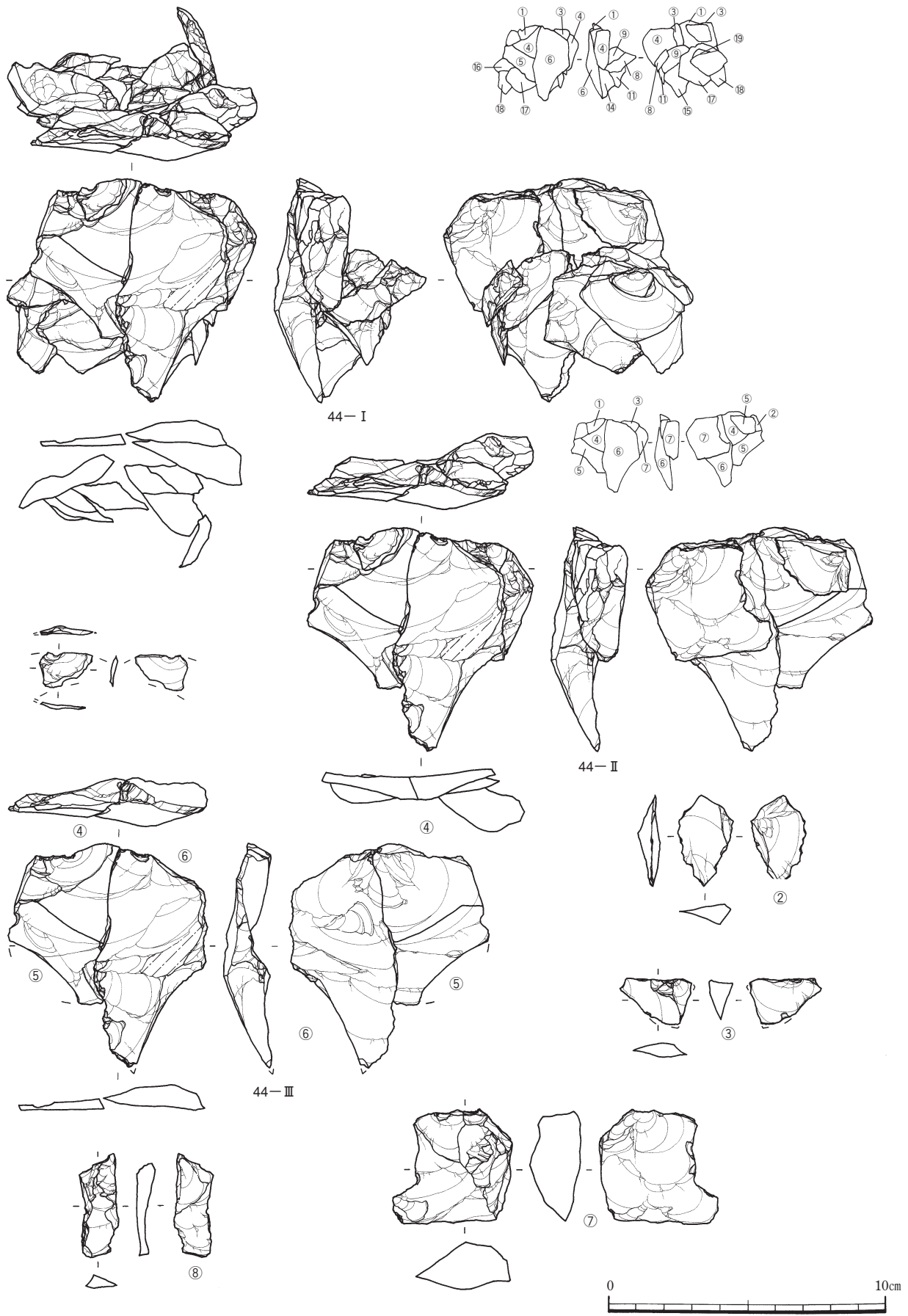
第15図 旧石器8

旧石器時代観察表1

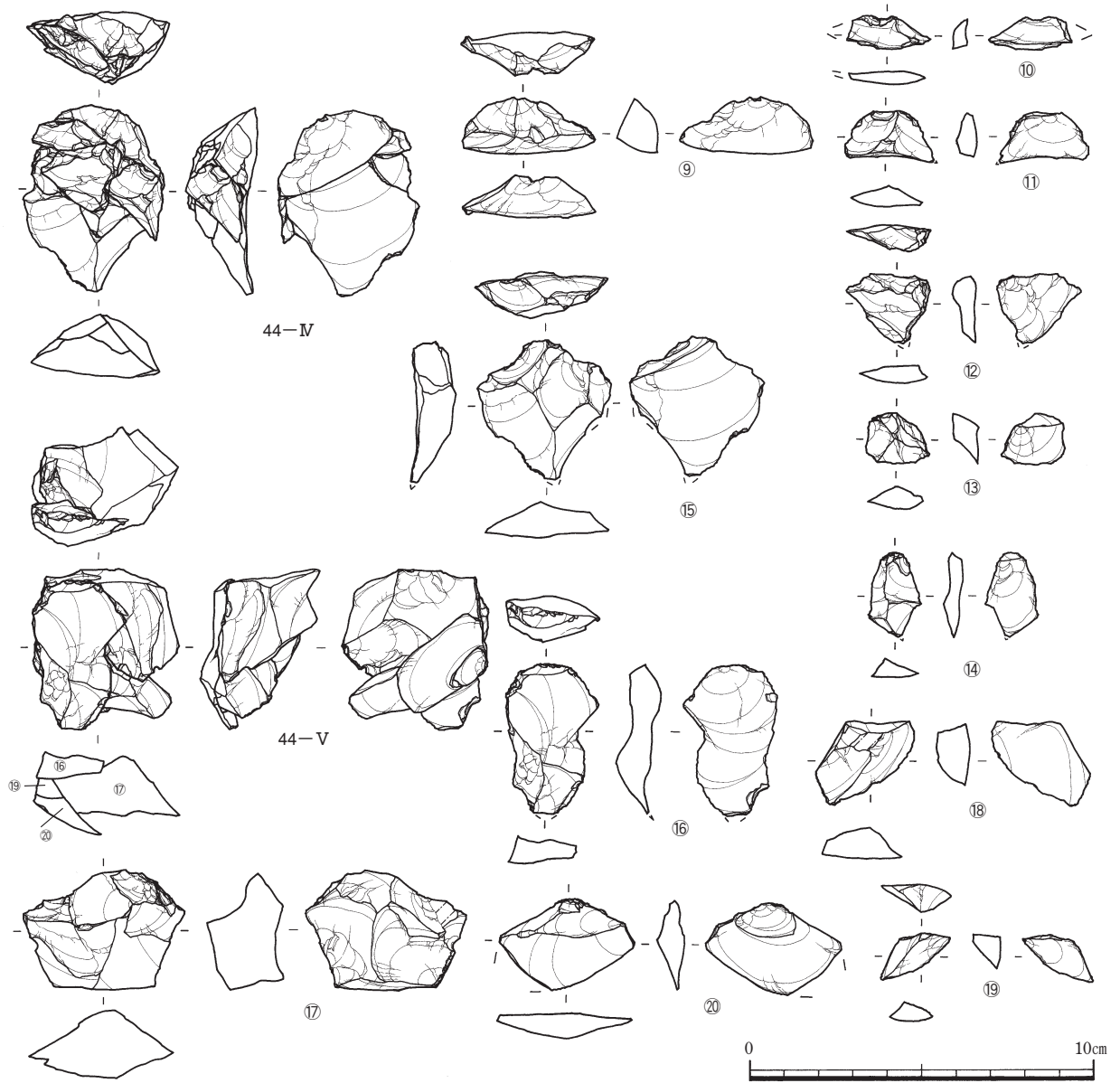
挿図番号	番号	器種 遺構	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第8図	1	集積遺構	H-13	VIII	チャート	—	—	—	—	接合資料
	1-⑥	剥片	H-13	VIII	頁岩	4.50	2.50	1.30	1.15	
第9図	2	ナイフ形石器	I-13	VIII	砂岩	(8.40)	2.00	1.45	18.30	
	3	ナイフ形石器	H-13	VIII	黒曜石(三船)	2.00	1.00	0.50	0.90	
	4	ナイフ形石器	H-12	VIII	玉髄	2.75	1.60	0.62	2.10	
	5	ナイフ形石器	H-13	VIII	チャート	3.10	1.35	0.45	1.60	
	6	ナイフ形石器	H-12	VIII	珪質頁岩	2.90	1.70	0.70	3.70	
	7	ナイフ形石器	H-12	VIII	珪質頁岩	3.30	1.50	0.60	2.20	
	8	ナイフ形石器	H-12	VIII	頁岩	3.10	1.90	0.90	4.10	
	9	台形石器	H-13	VIII	黒曜石(三船)	1.05	0.90	0.40	0.30	
	10	台形石器	H-12	VIII	玉髄	1.75	1.40	0.75	1.50	
	11	台形石器	H-12	VIII	珪質頁岩	1.80	1.50	0.60	1.10	
	12	台形石器	H-12	VIII	黒曜石(上牛鼻)	(1.50)	(1.40)	0.50	0.70	
	13	台形石器	H-12	VIII	玉髄	2.00	1.80	0.75	2.30	
	14	台形石器	H-13	VIII	玉髄	2.00	1.70	0.55	1.40	
	15	台形石器	H-13	VIII	黒曜石(上牛鼻)	2.00	1.70	0.55	1.90	
	16	台形石器	H-13	VIII	珪質頁岩	2.40	1.30	0.70	2.20	
	17	台形石器	H-12	VIII	珪質頁岩	1.80	1.10	0.40	0.90	



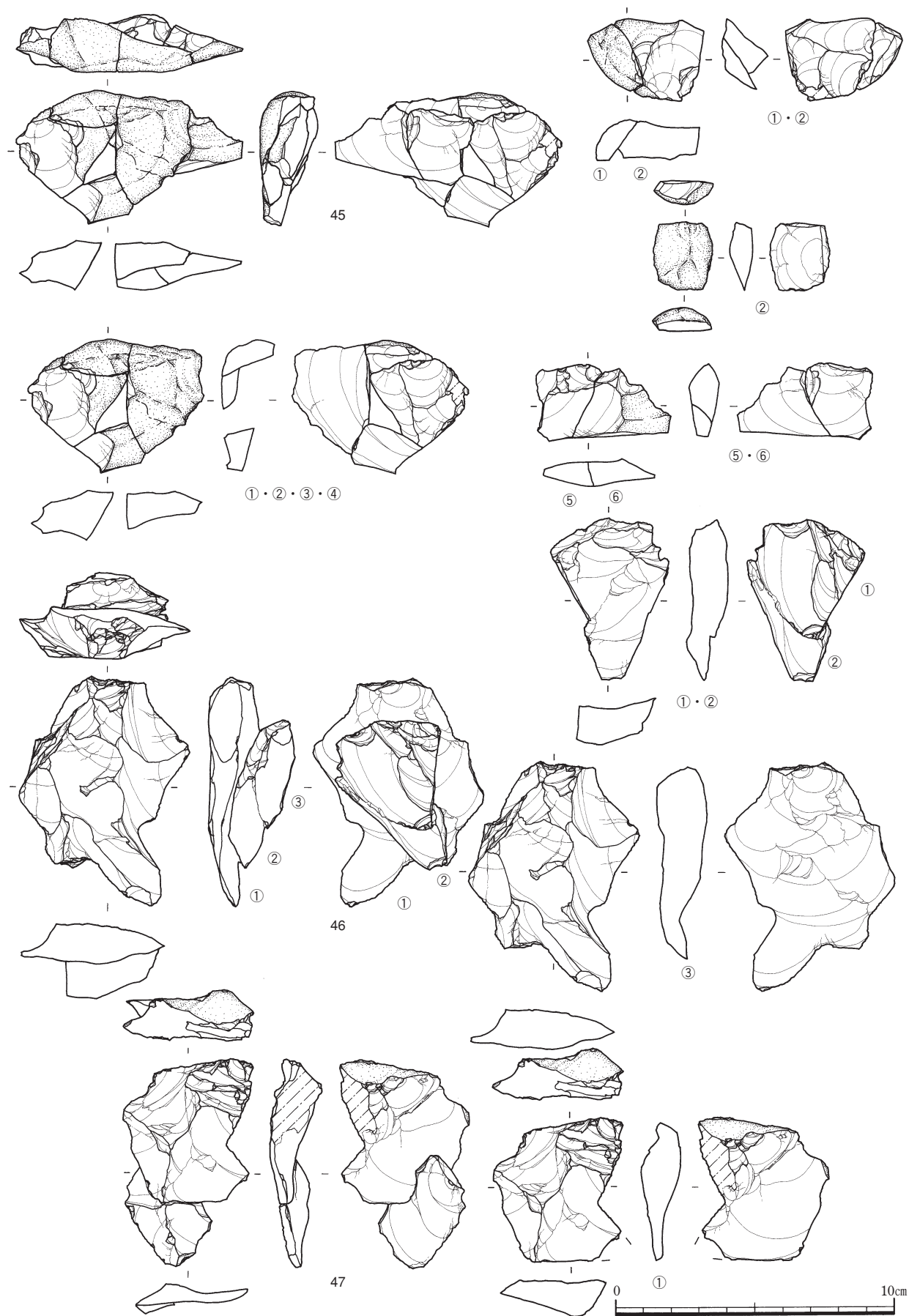
第16图 旧石器 9



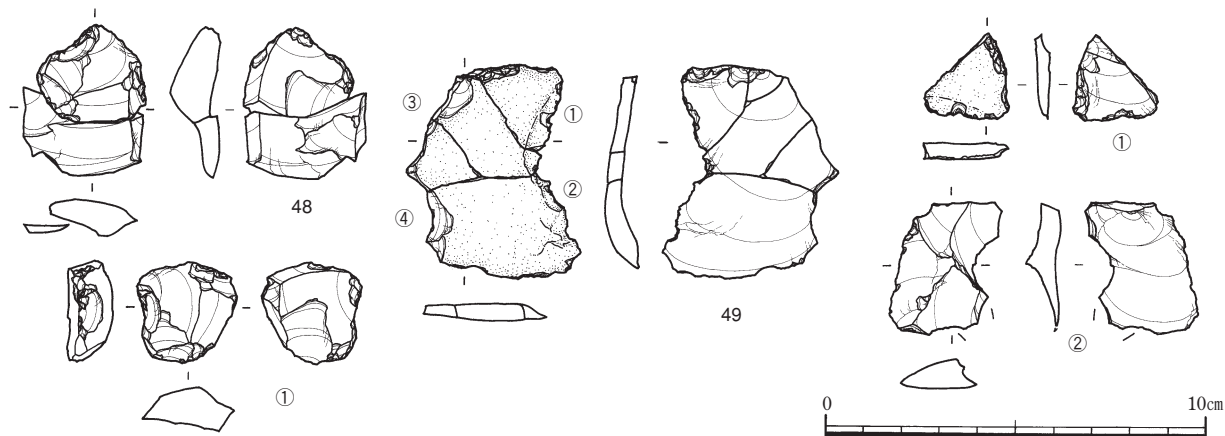
第17图 旧石器10



第18图 旧石器11



第19图 旧石器12



第20図 旧石器13

旧石器時代観察表 2

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第10 図	18	三稜尖頭器	I-12	VII	黒曜石(三船)	(1.75)	(1.10)	(1.00)	0.90	
	19	三稜尖頭器	H-12	VII	黒曜石(上牛鼻)	2.75	1.40	0.90	2.40	
	20	三稜尖頭器	H-13	VII	黒曜石(上牛鼻)	4.10	1.35	0.95	5.30	
	21	プランク	H-12	VII	黒曜石(上牛鼻)	1.80	2.65	2.10	10.90	
	22	スクレイパー	H-12	VII	黒曜石(西北九州系)	3.25	2.15	0.60	2.50	
	23	スクレイパー	H-13	VII	玉髄	1.80	2.50	0.90	2.50	
	24	スクレイパー	H-12	VII	硬質砂岩	4.10	6.20	2.00	32.20	
	25	スクレイパー	H-12	VII	珪質頁岩	3.60	2.40	0.90	6.40	
	26	スクレイパー	H-13	VII	珪質頁岩	5.30	6.00	1.50	30.50	
	27	スクレイパー	H-13	VII	珪質頁岩	2.20	2.00	1.10	4.30	
	28	スクレイパー	H-12	VII	珪質頁岩	4.80	5.10	2.30	44.30	
	29	スクレイパー	H-13	VII	黒曜石(三船)	2.15	2.00	0.65	2.80	
	30	スクレイパー	H-13	VII	玉髄	2.70	2.15	0.70	3.20	
	31	スクレイパー	H-13	VII	玉髄	(3.10)	(2.20)	0.90	4.20	
	32	スクレイパー	G-13	VII	黒曜石(三船)	(2.25)	(1.40)	(7.05)	1.90	
33	スクレイパー	H-12・13	VII・VIII	玉髄	2.10	2.90	0.50	2.20		
34	スクレイパー	H-12	VII	玉髄	1.90	1.90	0.30	0.90		
35	スクレイパー	H-12	VII	シルト質頁岩	11.20	4.90	1.60	62.20		
第11 図	36	石核	H-13	VII	シルト質頁岩	7.00	18.60	4.10	475.0	
	37	剥片	H-13	VII	シルト質頁岩	8.20	3.50	1.70	41.90	
	38	石核	H-13	VII	頁岩	3.70	5.10	4.10	68.60	
第12 と 20 図	39	接合資料	H-12・13	VII	鉄石英	—	—	—	—	
	40	接合資料	H-12・13	VII	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	41	接合資料	H-12	VII	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	42	接合資料	H-12	VII	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	43	接合資料	H-12	VII	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	44	接合資料	H-12・13	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	
	45	接合資料	H-12	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	
	46	接合資料	H-12・13	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	
	47	接合資料	H-12	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	
	48	接合資料	H-12	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	
	49	接合資料	H-12	VII	珪質頁岩	—	—	—	—	

第5節 縄文時代の調査成果

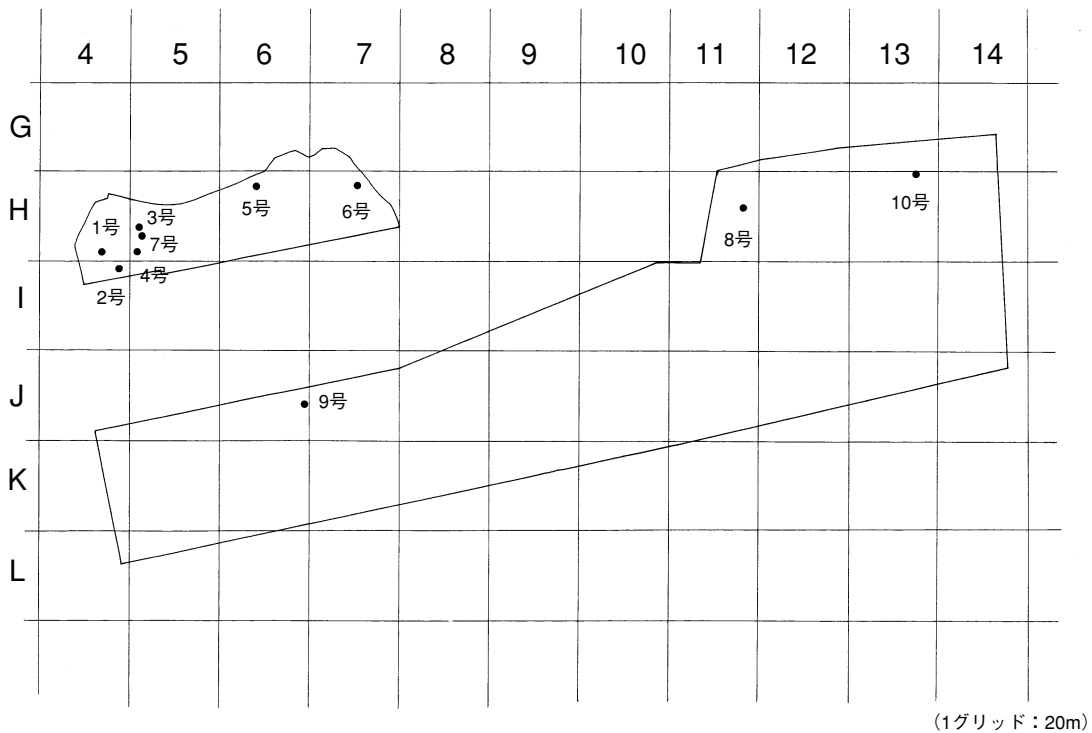
縄文時代は早期の遺物出土量が際立っている。早期では、集石遺構10基が検出され、土器・石器が多く出土している。晩期では、1間×1間の掘立柱建物跡、柱穴（3～6個）が一行に並ぶ柱穴列が検出され、土器・石器も多く出土している。土器は入佐式土器が主体である。後期は市来式土器が1点出土したのみで、遺構も検出されなかった。

1 縄文時代早期の調査成果

縄文時代早期では、前葉から後葉（Ⅰ類～Ⅺ類）までの11類の土器が出土している。その中で出土量の多いのはⅤ類土器、次いでⅢ類土器・Ⅱ類土器・Ⅳ類土器である。遺構は集石遺構が10基検出されている。

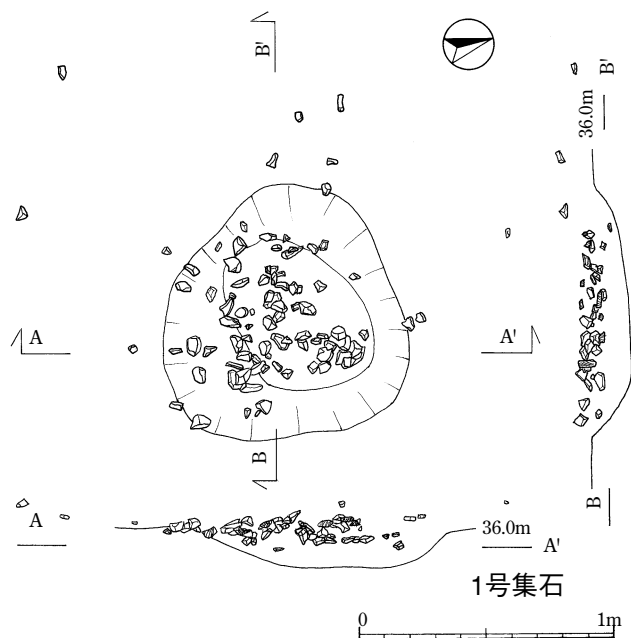
(1) 遺構（第21図～第25図）

縄文時代早期の遺構は、平成11年度調査分7基、平成15年度調査分3基、合わせて10基が検出されている。



1号集石遺構（第21図）

H-4区において検出されたもので1.5m×1.5mの範囲に広がるが、集中範囲は0.6m×0.6mである。こぶし大の角礫98個からなり、掘り込みは中心部に位置し、長さ1m、幅1m、深さ0.15mの不整形なものである。また、礫は掘りこみの床面より上位にあり、ほぼ平坦である。



第21図 縄文時代早期集石遺構配置図 1号集石遺構

2号集石遺構（第22図）

I-4区において検出されたもので、1.5m×1mの範囲に広がる。こぶし大の角礫63個からなり、礫は、やや集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

3号集石遺構（第22図）

H-5区において検出されたもので、2.5m×1.8mの範囲に広がる。こぶし大の角礫62個がまばらな

状態で見られる。掘りこみは見られずほぼ平坦である。

4号集石遺構（第23図）

H-5区において検出されたもので、1.5m×1mの範囲に広がる。こぶし大から小礫まで46個からなり、南端にわずかな集中が見られ、北側へのびている。掘り込みは見られずほぼ平坦である。



第22図 2号・3号集石遺構

5号集石遺構（第23図）

H-6区において検出されたもので、1.5m×1.3mの範囲に広がる。こぶし大の角礫を中心に56個からなる。北側の傾斜が強いため、一部が傾斜に沿って落ちている状況である。掘り込みは見られない。

6号集石遺構（第23図）

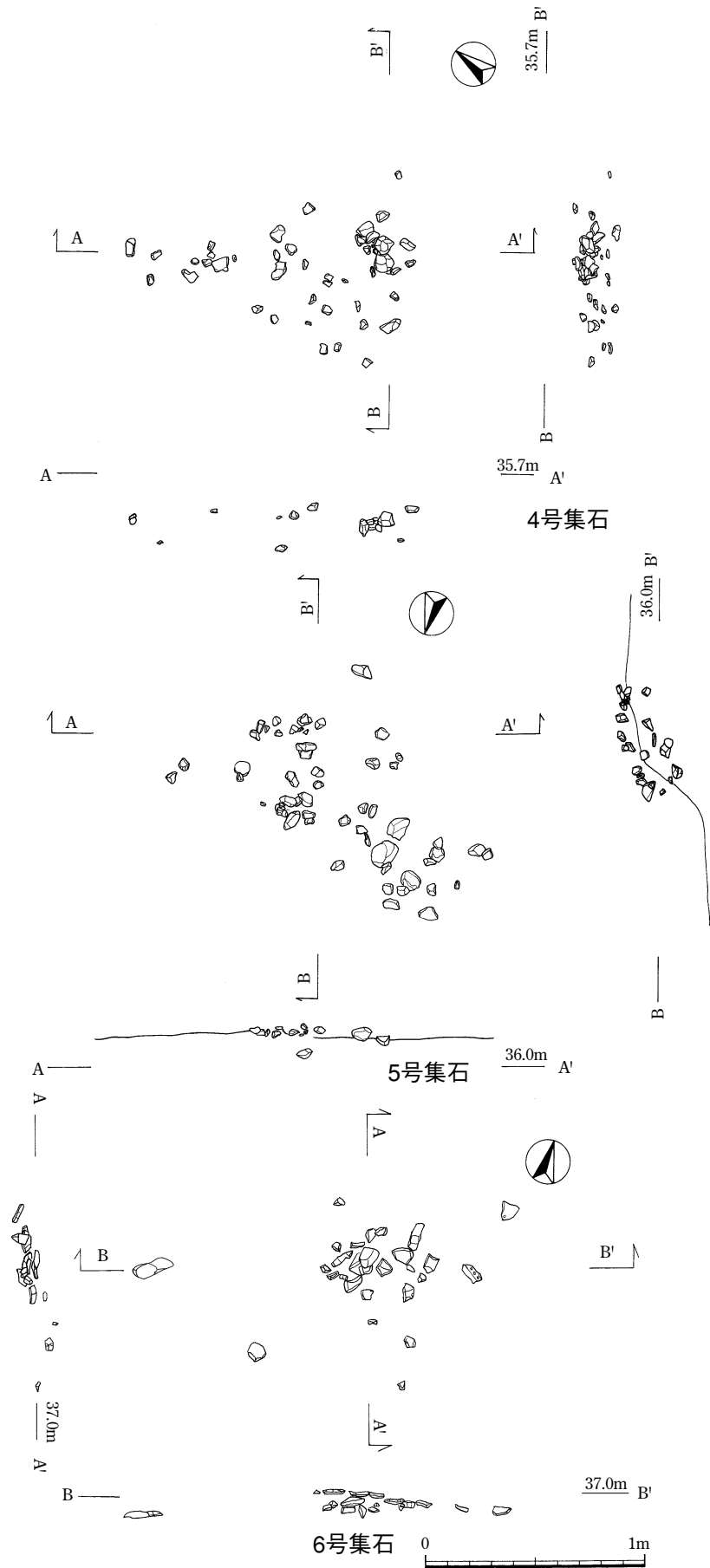
H-7区において検出されたもので、1.6m×1mの範囲に広がる。10cm大の角礫を中心に26個からなり、中心部にわずかな集中がある。東側に土器片2点も見られる。掘り込みは見られず平坦である。

7号集石遺構（第24図）

H-5区において検出されたもので、1m×1mのこぶし大の角礫126個が集中している。掘り込みは集中域の下で、0.7m×0.6m、深さ0.2mである。礫も掘り込みの下部まで入り込んでいる。

8号集石遺構（第24図）

H-11区において検出されたもので、2.3m×1.8mの範囲にこぶし大の角礫35個がまばらな状態で見られる。掘り込みはなく平坦である。



第23図 4号・5号・6号集石遺構

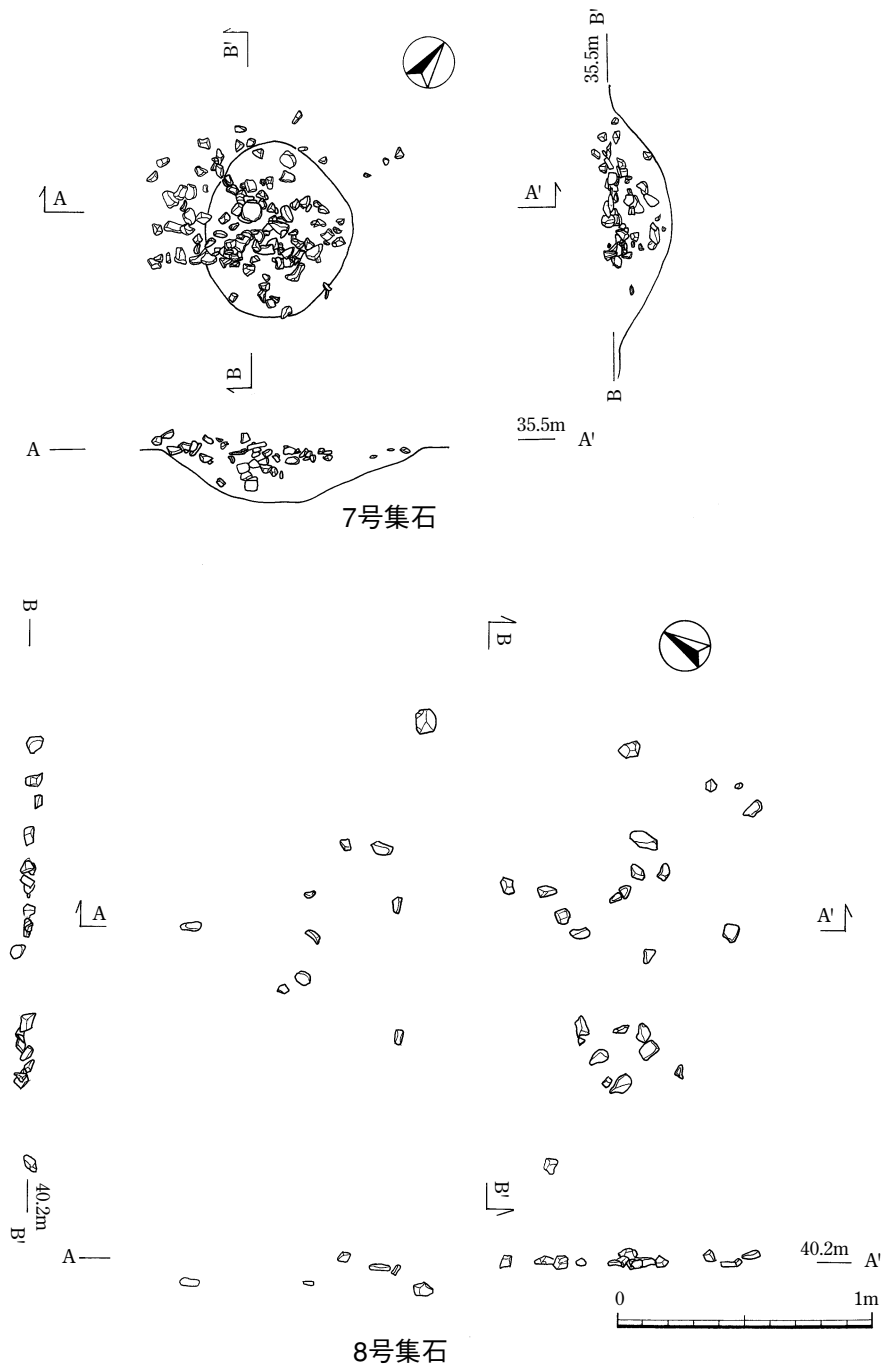
9号集石遺構（第25図）

J-6区において検出されたもので、3m×3mの広い範囲に見られる。こぶし大よりやや大きめの角礫を中心に309個の礫が1m×1mのやや集中した範囲を中心にして周辺はまばらに散在している状況である。掘り込みは集中している範囲の下位にあり、1.35m×1.25mの円形プランであるが、深さは

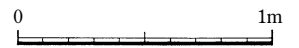
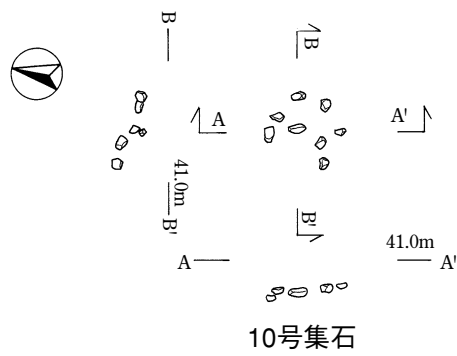
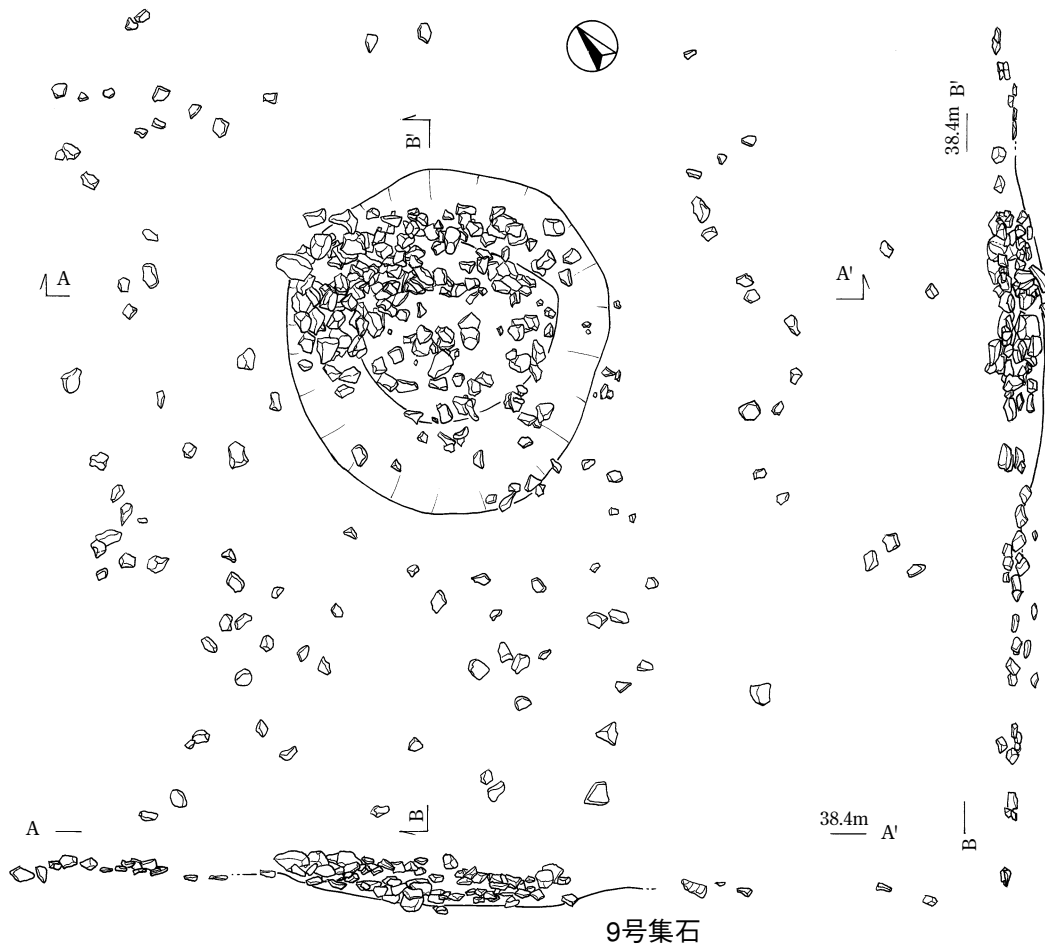
0.2mと浅いものである。周辺に散在している礫は中心部から掻き出されたものと思われる。

10号集石遺構（第25図）

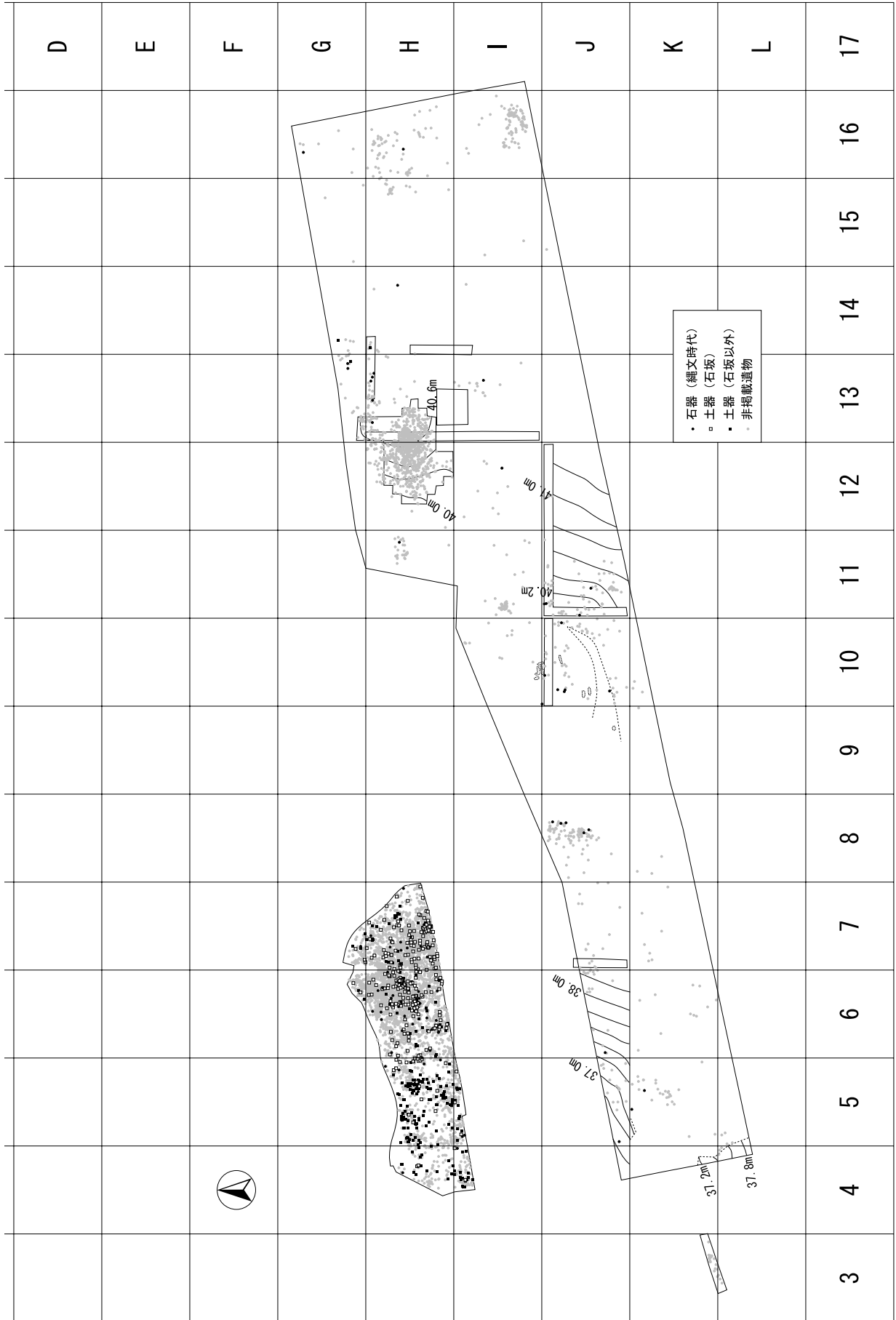
H-13区において検出されたもので、0.3m×0.3mの範囲に10cm未満の角礫8個がまばらな状態で見られる小さなものである。掘り込みはなく平坦である。



第24図 7号・8号集石遺構



第25图 9号・10号集石遺構



第26図 縄文時代早期遺物出土状況

(2) 遺物 (第27図～第59図)

①土器 (第27図～第49図)

縄文時代早期の土器は、Ⅰ類～Ⅵ類の11類に分類される。Ⅱ類土器・Ⅲ類土器・Ⅴ類土器はまとめて出土しているが、他の類は数は少ない。

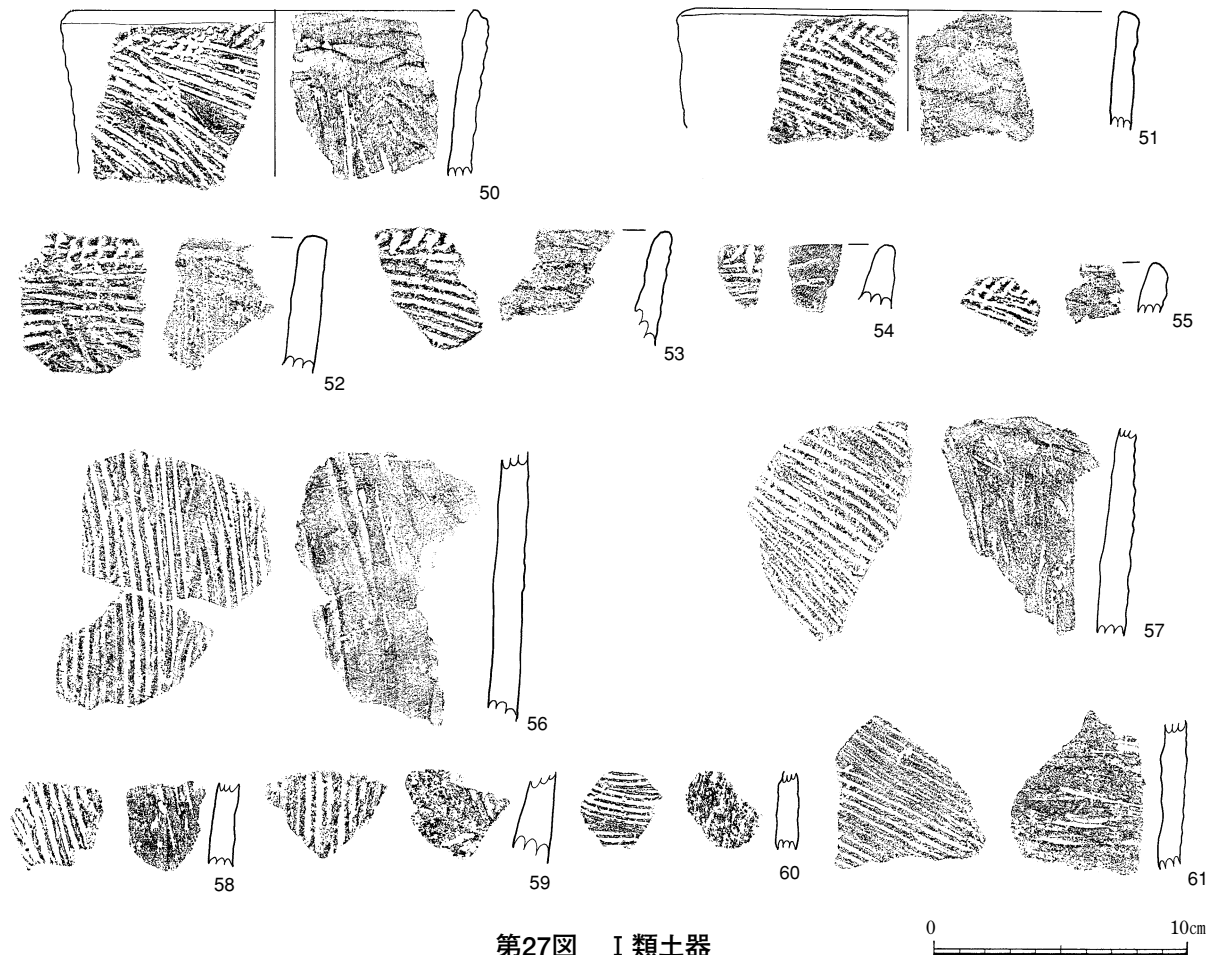
Ⅰ類土器 (第27図)

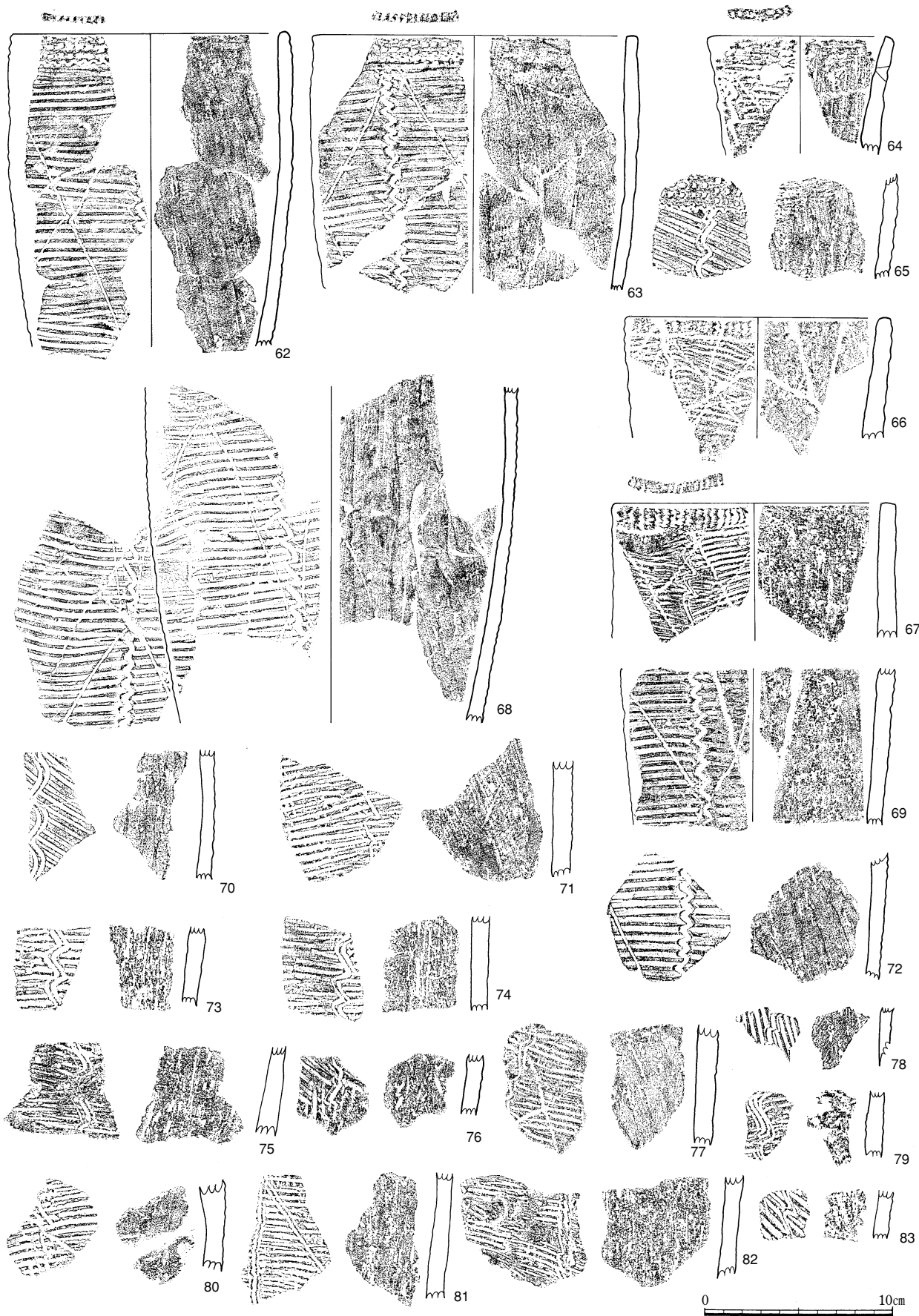
Ⅰ類土器はほぼ直行する円筒土器である。口縁端部にヘラ状施文具もしくは貝殻腹縁による刻目を施し、胴部は荒い斜行する貝殻条痕が施されるものである。50は口縁部径16.8cmを測る。わずかに外開き気味の器形で、口縁端部に貝殻腹縁による刻目を施し、胴部は荒い条痕である。51は口縁部径18.2cmを測る。ほぼ直行する器形で、口縁部端部に刻目を施し、胴部は荒い貝殻条痕である。52～55は口縁部で、端部に刻目を施すものである。56～61は胴部で、荒い貝殻条痕が施されるものである。

Ⅱ類土器 (第28図～第31図)

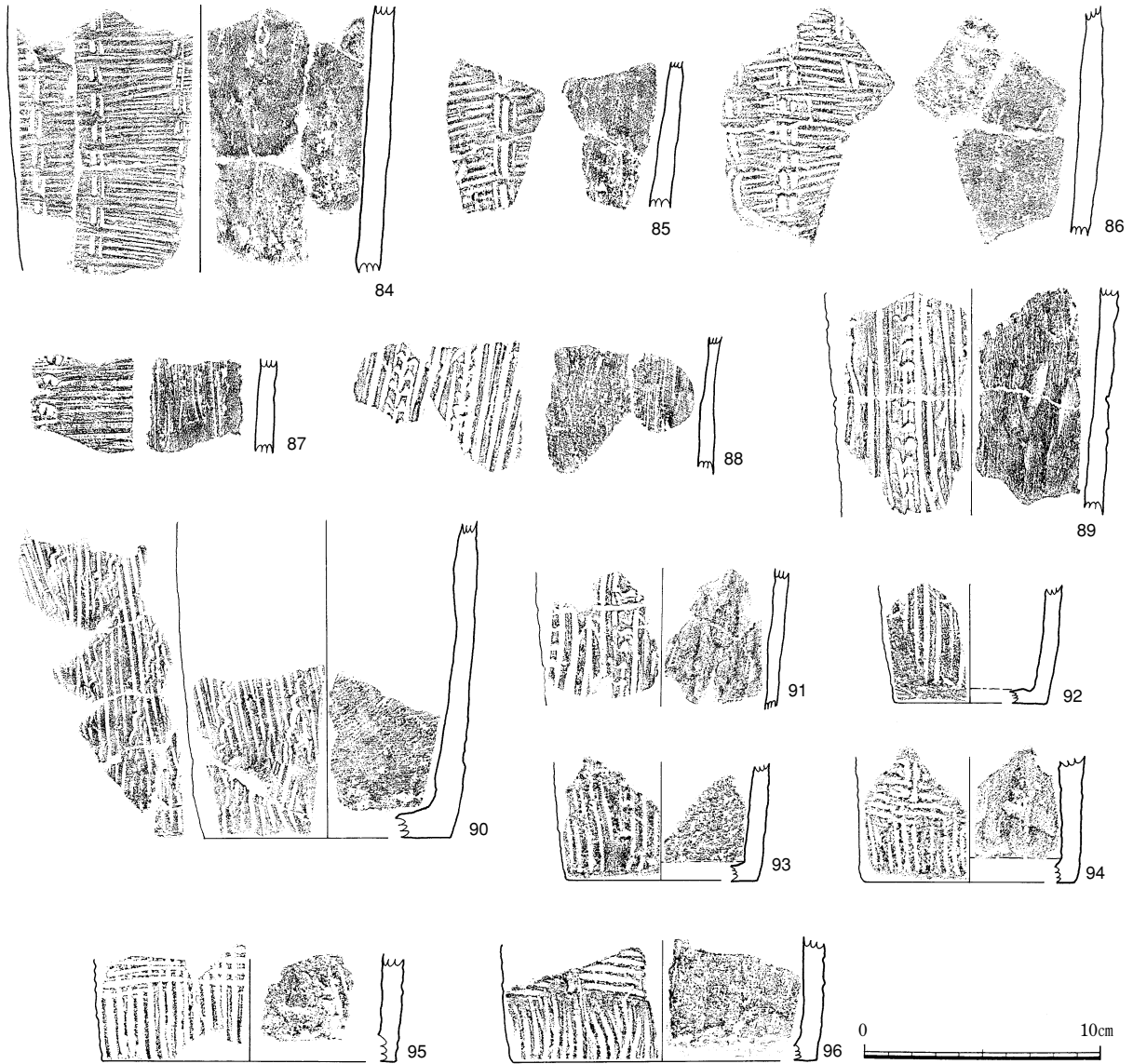
Ⅱ類土器には、円筒土器・角筒土器・レモン形土器の3つの形態がある。文様構成は口縁部には横位若しくは縦位の貝殻刺突文を施し、胴部には地文と

して整然とした横位の貝殻条痕文を施し、その上に沈線文及び流水文・刺突連点文等を施す二重施文が特徴である。62～96は円筒土器である。62と63は胴部から口縁部へわずかに内湾気味に直行するもので、62は口縁部径14.8cm、63は口縁部径17.3cmを測る。64は口縁部が外反するもので、補修孔が認められる。67・68は口縁部が直行するものである。84～91は縦位の刺突連点文が施されるものである。88～94は貝殻復縁による刺突連点文が施され、地文の貝殻条痕が縦位に施されるものである。90～96は底部。下には縦位の荒い沈線文が施される。97～114は角筒土器。文様構成は円筒土器とほぼ同様である。97は1辺9.5cmを測るもので、角の部分が山形になる。98・99は口縁部で、角の部分が山形になるものである。98には補修孔が見られる。115と116は口縁部上面観がレモンのような形をしているのでレモン形土器とされているものである。口縁部に縦位の貝殻刺突文を施し、胴部には地文の貝殻条痕文と刺突連点文が施される。





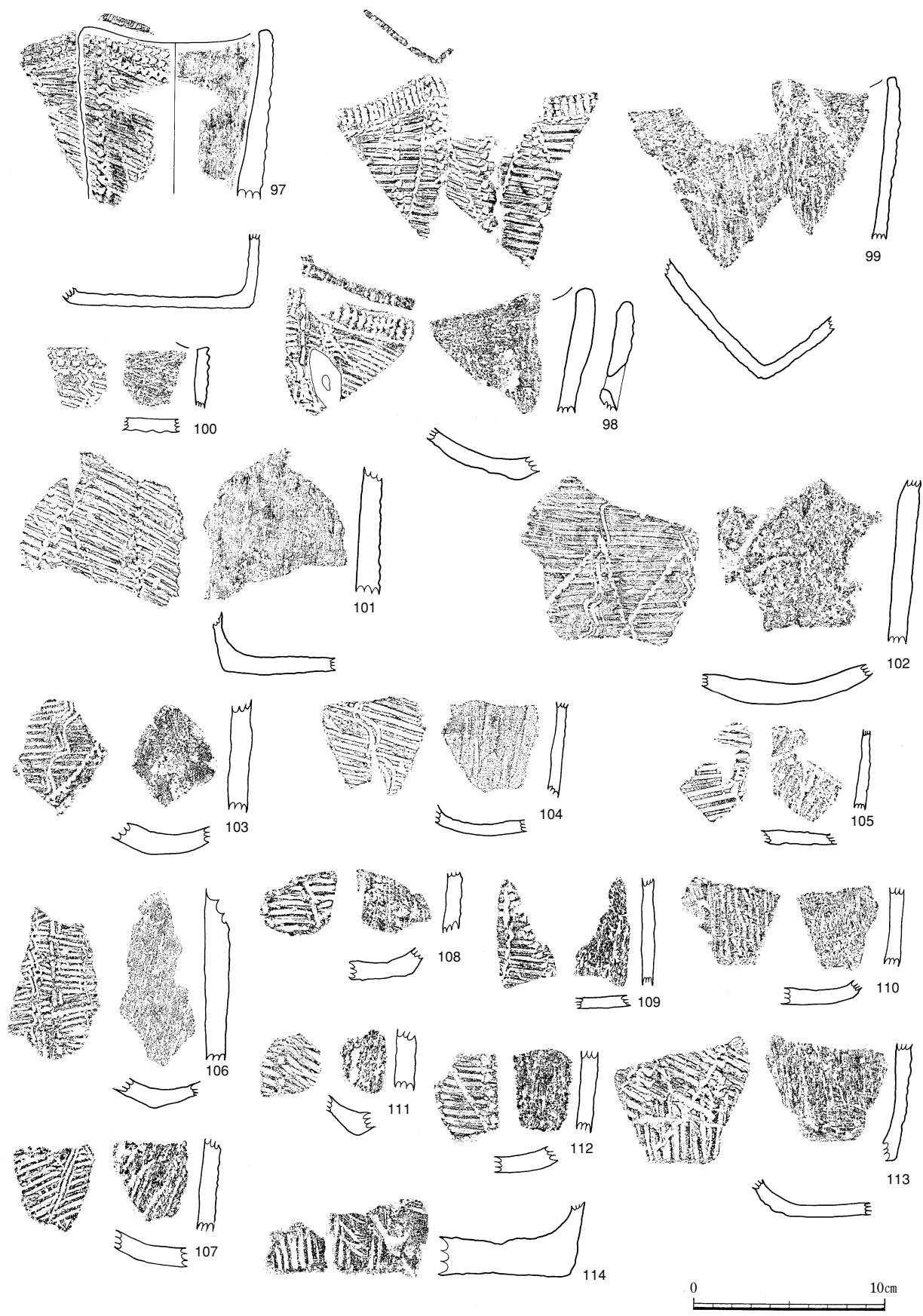
第28図 II類土器(1)



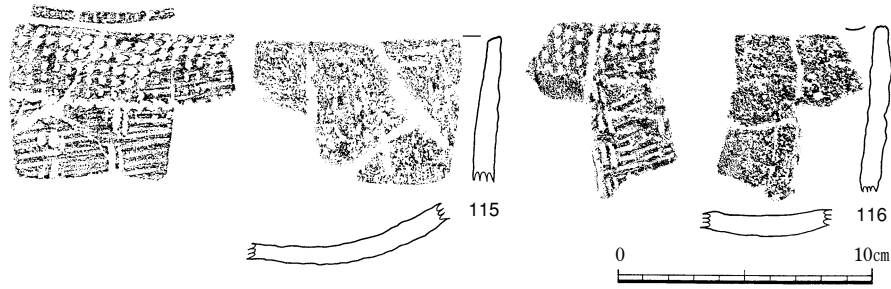
第29図 II類土器(2)

I類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼 成	外 面	内 面	類 備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 27 図	50	H-5	IV	口縁部	浅黄	暗灰黄	○	○	○		良	貝殻刻目・条痕文	ヘラケズリ・ヘラミガキ	I
	51	H-7	IV	口縁部	オリーブ黄	にぶい黄	○	○	○		良	貝殻刻目・条痕文	ヘラミガキ	I
	52	H-5	IV	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	貝殻刻目・条痕文	ヘラケズリ	I
	53	H-7	IV	口縁部	灰オリーブ	オリーブ黄	○	○			良	ヘラ刻目・条痕文	ヘラミガキ	I
	54	H-6	IV	口縁部	黄褐	にぶい黄	○	○			良	ヘラ刻目・貝殻条痕文	ナデ	I
	55	G-6	IV	口縁部	黄灰	黄褐	○	○			良	貝殻刻目・条痕文	ヘラミガキ	I
	56	H-5	IV	胴部	にぶい黄	明黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I
	57	H-5	IV	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I
	58	H-7	IV	胴部	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I
	59	-	IV	胴部	暗オリーブ褐	オリーブ褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I
	60	H-5	IV	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I
61	H-6	V	胴部	灰オリーブ	にぶい黄	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	



第30图 II類土器(3)



第31図 II類土器(4)

II類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	類	備考		
					内	外	石英	長石	角閃石	その他							
第28 図	62	H-5・6	IV・V	口縁~胴部	黒褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	63	H-5	IV	口縁~胴部	オリーブ褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	64	H-5	IV	口縁部	黒	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	補修孔有	
	65	H-5	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	66	H-4	IV	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	II		
	67	H-4	IV	口縁部	灰黄褐	黒褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	II		
	68	H-5,7	IV	胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	69	H-5	IV	胴部	黒褐	黒褐	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	70	H-5	IV	胴部	暗灰黄	黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	71	-	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	72	H-5	V	胴部	オリーブ黒	黒褐	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	73	H-6	IV	胴部	灰黄褐	黒褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	74	H-6	IV	胴部	にぶい黄褐	オリーブ褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	75	H-6	IV	胴部	オリーブ黒	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	76	H-6	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	77	H-4	IV	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	78	I-4	IV	胴部	暗オリーブ褐	黄灰	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	79	H-7	IV	胴部	暗灰黄	浅黄	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	80	H-5	IV	胴部	褐	褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	81	H-7	IV	胴部	オリーブ褐	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻条痕文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	II		
	82	H-5	IV	胴部	黒褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	83	H-5	IV	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II		
	第29 図	84	H-6	IV	胴部	暗オリーブ褐	暗灰黄	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	II	
		85	H-7	IV	胴部	黄褐	黄褐	○	○	○			良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	II	
		86	H-6	IV	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	II	
		87	H-6	V	胴部	にぶい褐	灰褐	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II	
		88	H-5	IV	胴部	黒褐	黄灰	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II	
		89	H-5	IV	胴部	黒褐	浅黄	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II	
90		I-4	IV・V	底部	褐	にぶい褐	○	○	○			良	流水文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
91		H-5	IV	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
92		H-5	IV	底部	にぶい黄褐	黄褐	○	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
93		H-5	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	連点文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
94		I-5	IV	底部	にぶい黄	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文	ヘラケズリ	II		
95		H-5・6	IV・V	底部	黒褐	褐	○	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
96		H-5	IV	底部	褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
第30 図		97	H-5・6	IV	口縁部	にぶい黄褐	黄灰	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒
	98	H-4	IV	口縁部	暗褐	暗褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	II	補修孔有	
	99	H-6	IV	口縁部	橙	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	角筒	
	100	H-4	IV	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	101	H-5	IV	胴部	黄褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	102	H-5	IV	胴部	褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	103	H-7	IV	胴部	暗灰褐	黄褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	104	H-5	IV	胴部	オリーブ褐	黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	105	H-5	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	106	H-5	IV	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○			良	貝殻条痕文・連点文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	107	H-5	IV	胴部	明黄褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文	ヘラケズリ	II	角筒	
	108	G-7	IV	胴部	黒褐	褐	○	○				良	貝殻条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	角筒	
	109	H-6	IV	胴部	にぶい黄	浅黄	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	角筒	
	110	I-4	IV	胴部	にぶい褐	暗赤褐	○	○				良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ	II	角筒	
	111	-	IV	胴部	暗褐	褐	○	○	○			良	貝殻条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	角筒	
	112	H-6	IV	胴部	明黄褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	角筒	
113	H-6	V	底部	黒褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・沈線文	ヘラケズリ	II	角筒		
114	H-5	IV	底部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・沈線文	ヘラケズリ	II	角筒		
第31 図	115	H-4	IV	口縁部	褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	レモン形	
	116	H-5・6	IV	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文・連点文	ヘラケズリ	II	レモン形	

Ⅲ 類土器 (第32図～第35図)

Ⅲ 類土器には円筒土器・クサビ形貼付文の円筒土器・角筒土器の3つの形態がある。円筒土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文を施し、胴部には貝殻刺突文と斜位の貝殻条痕文を押引状に施すものである。117～125は口縁部である。口唇部が平坦なものには刻目が施されているが、120～122・124は口唇部がやや丸みを帯び、刻目が施されていない。

117は口縁部径12.4cmを測るもので、わずかに内湾する形態である。口縁部に3条の刺突文を廻らし、胴部には縦位の貝殻刺突文と斜位の条痕文を施す。平坦な口唇部にはヘラによる刻目が見られる。119は口縁部径12cmを測るものでほぼ直行する形態である。文様構成は117と同様である。118は口縁部径22.5cmを測るものである。口縁部に7条の貝殻刺突文を廻らし、胴部の貝殻条痕文は横位に近いものである。

126～180は胴部片である。いずれも貝殻刺突文と押引状の貝殻条痕文が施されるものである。181～183は底部である。181は底部径11.2cmを測るもので、ヘラによる沈線文を縦位に施す。182は底部径7.5cm

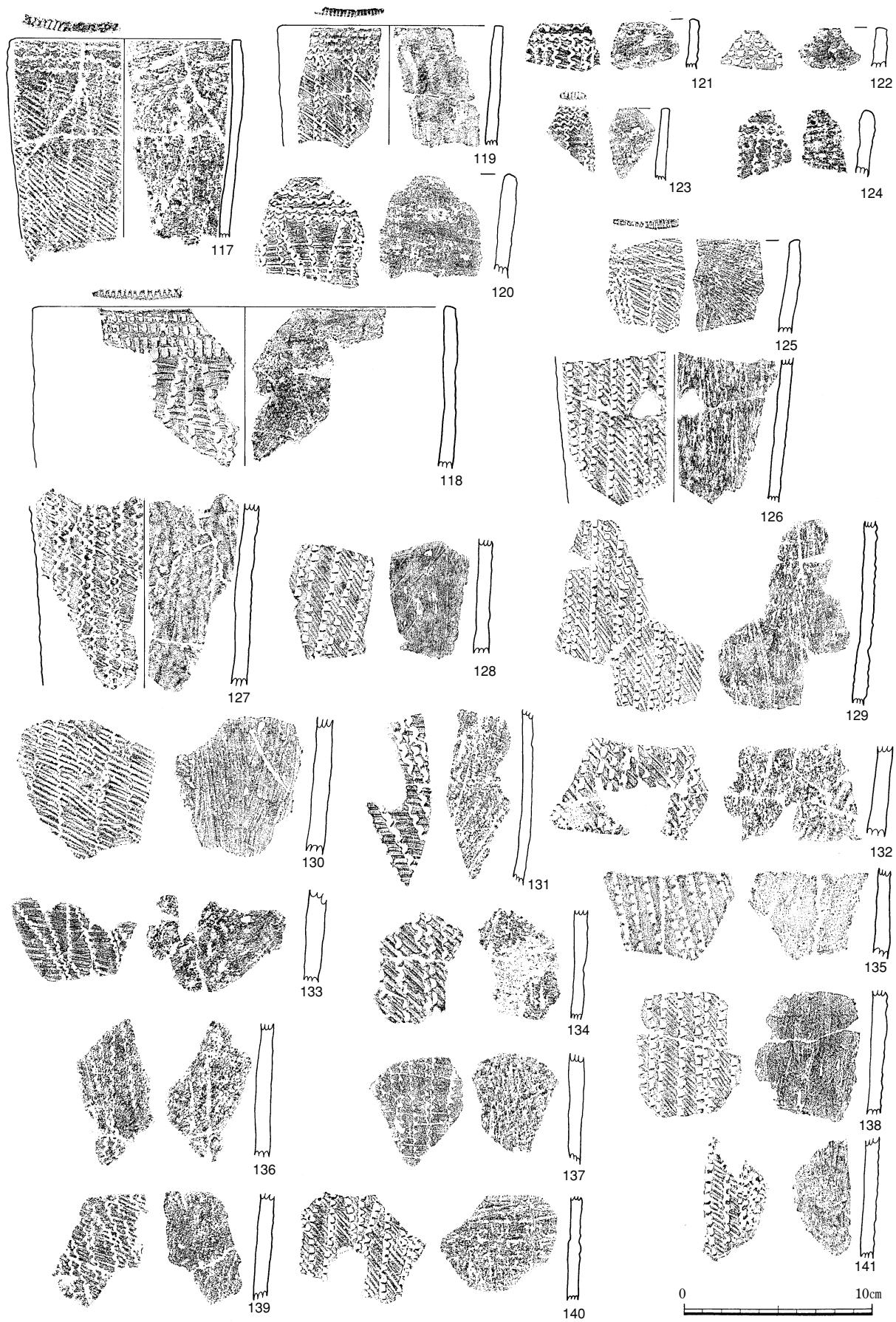
を測るもので、細い沈線文が縦位に施されるが不規則である。183はヘラによる沈線文を縦位に施すものである。

184～205はクサビ形貼付文を有する円筒土器である。口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部には縦位の貝殻刺突文と斜位の押引状貝殻条痕文を施し、平坦な口唇部に刻目が見られる所は円筒土器と同様である。クサビ形貼付文は胴部上位に2段施されているものがほとんどである。184～190は口縁部。184は口縁部径17cmを測るもので、わずかに外反する。185は口縁部径13.5cmを測るものでほぼ直行する。191～205は胴部である。198, 203, 205は胴部の貝殻条痕文がナデ消されている。192, 199, 200は胴部の貝殻条痕文が横位である。

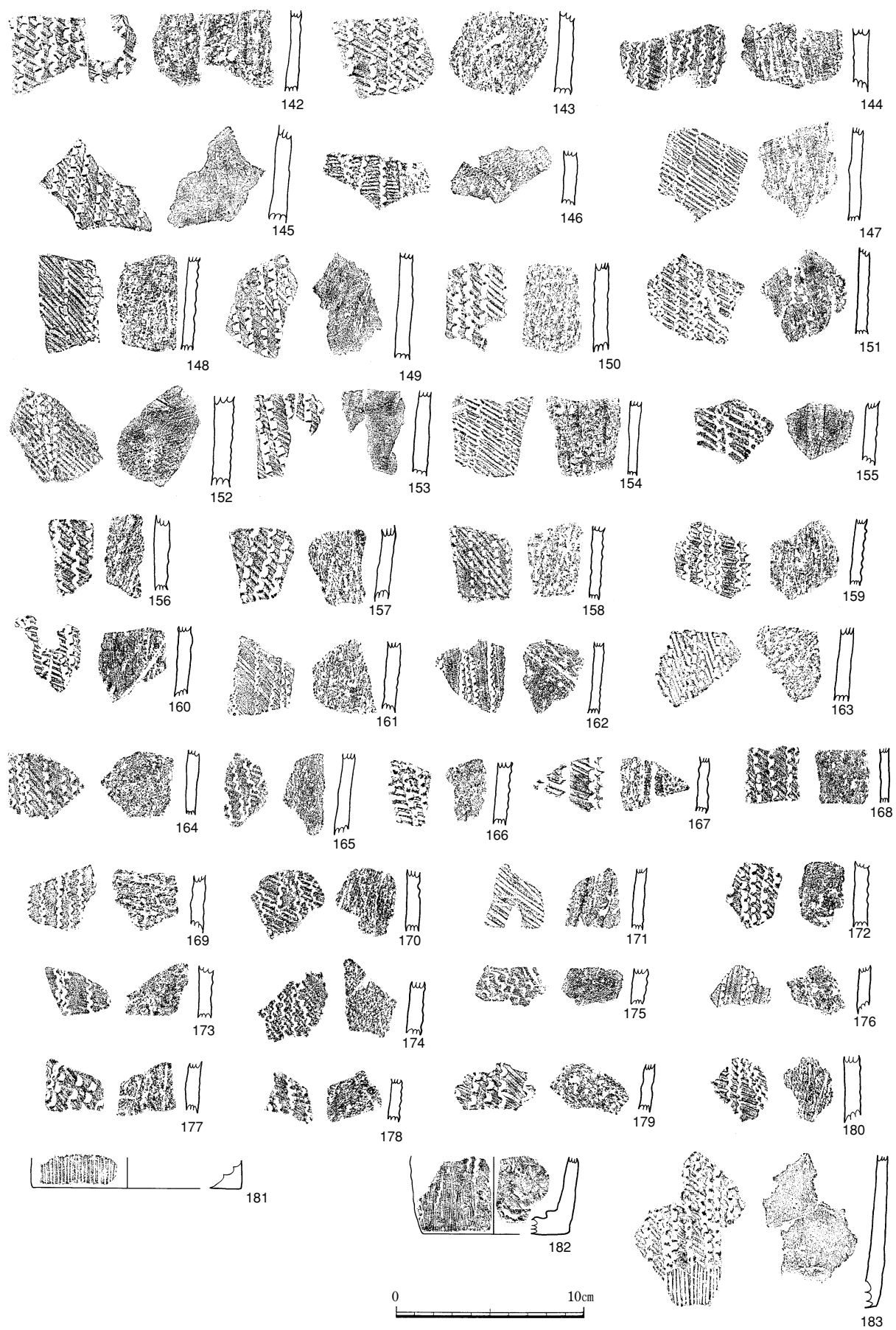
206～222は角筒土器である。文様構成は円筒土器・クサビ形貼付文を有する円筒土器と同様である。206は口縁部である。口縁部には横位の貝殻押引文を施し、胴部は貝殻刺突文と押引状の条痕文を施すものである。207～222は胴部である。

Ⅲ 類土器観察表

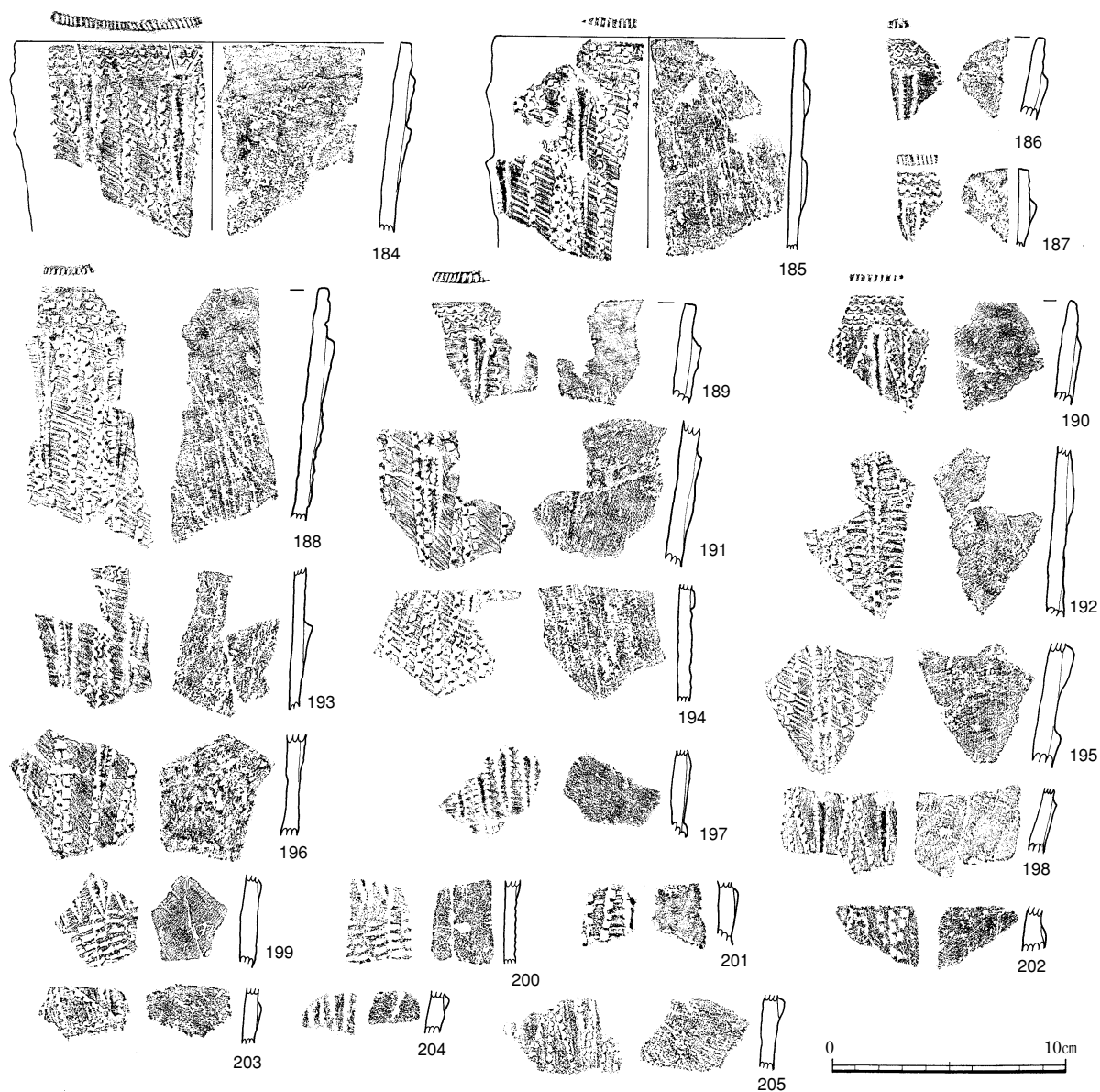
挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土 焼 成					外 面	内 面	類 備考	
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第 32 図	117	H-4-5	Ⅳ・Ⅴ	口縁～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	118	H-5	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	119	—	—	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ
	120	H-5	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	121	H-7	Ⅳ	口縁部	黄褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	122	H-5	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ
	123	H-6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	暗灰黄	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	124	H-5	Ⅳ	口縁部	浅黄	黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	125	H-6	Ⅳ	口縁部	褐	明褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	126	H-5	Ⅳ	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	127	H-6	Ⅳ	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	128	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	Ⅲ
	129	I-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	130	G-13	Ⅳ	胴部	黄褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	131	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	132	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	133	H-5	Ⅳ	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	134	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	135	H-5	Ⅳ	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	136	I-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
	137	—	—	胴部	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ
138	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
139	H-I-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
140	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
141	H-5	Ⅳ	胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	



第32図 Ⅲ類土器 (1)



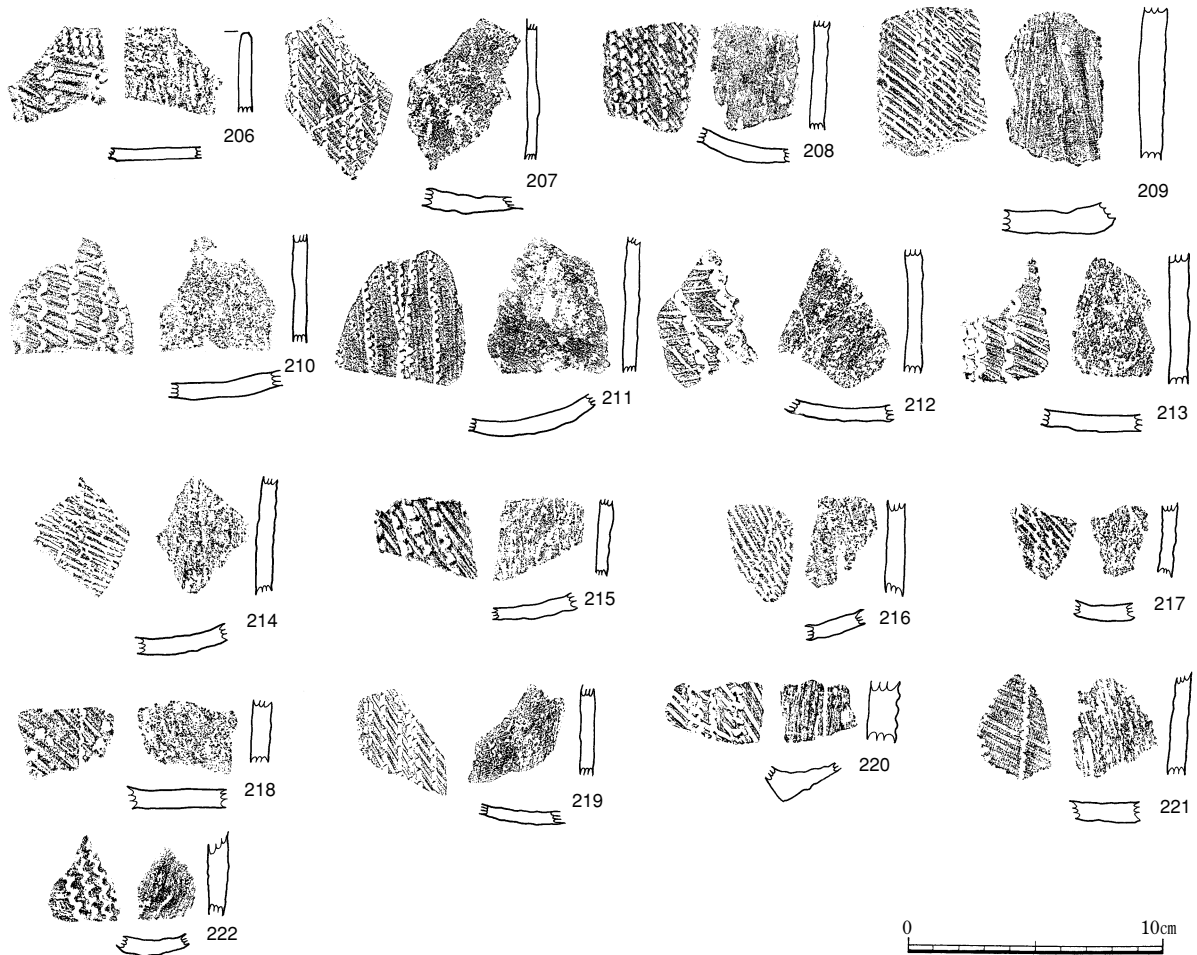
第33図 Ⅲ類土器（2）



第34図 III類土器 (3)

III類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土					焼 成	外 面	内 面	類	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他						
第 33 図	142	H-5	IV	胴部	にぶい黄褐	暗褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	143	H-6	IV	胴部	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	144	H-5	IV	胴部	黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	145	H-5	IV	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	146	H-6	VI	胴部	にぶい黄	にぶい赤褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	147	I-4	V	胴部	黒褐	浅黄	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	148	I-4	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	149	H-5	IV	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	150	H-5	IV	胴部	黄褐	暗灰黄	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	151	H-5	IV	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	152	H-7	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	153	H-5	V	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	154	H-5	IV	胴部	オリーブ褐	にぶい黄	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	155	H-5	IV	胴部	にぶい黄橙	暗灰黄	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	156	H-5	IV	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	157	H-5	IV	胴部	灰黄	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	158	I-4	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
159	H-4	IV	胴部	オリーブ褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		
160	H-5	V	胴部	黄褐	灰黄褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ		
161	I-4	IV	胴部	黄褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		



第35図 III類土器（4）

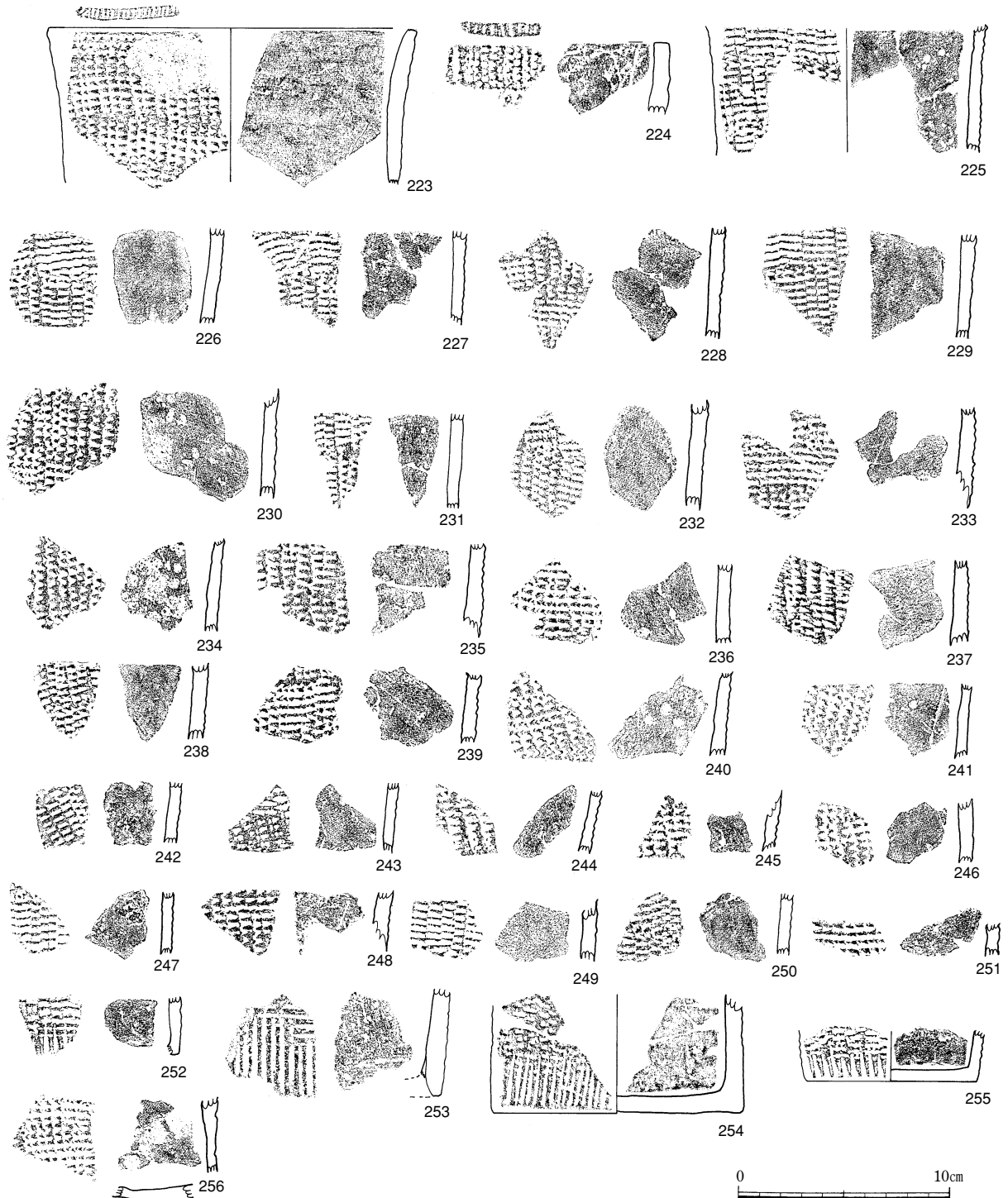
III類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼 成	外 面	内 面	類 備考	
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第 33 図	162	H-5	IV	胴部	黒褐	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	163	H-4	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	164	I-5	IV	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	165	H-5	IV	胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	166	H-4	IV	胴部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	167	H-5	IV	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	168	I-5	IV	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	169	H-5	IV	胴部	浅黄	暗灰黄	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	170	H-5	V	胴部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	171	H-5	IV	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	補修孔有
	172	H-4	IV	胴部	暗灰黄	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	173	I-4	IV	胴部	黄灰	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	174	I-5	IV	胴部	黄褐	浅黄	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	175	H-7	IV	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ	
	176	H-5	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ	
	177	I-5	IV	胴部	浅黄	にぶい黄	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	178	H-6	IV	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	
	179	H-5	IV	胴部	黄褐	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	180	G-13	IV	胴部	黒褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	181	H-5	IV	底部	褐灰	橙	○	○			良	沈線文		Ⅲ	
	182	H-5	IV	底部	黒褐	暗褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	183	H-4	IV	底部	にぶい黄褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅲ	

IV類土器（第36図）

IV類土器には円筒土器，角筒土器の形態がある。胴部に横位の押引文を施すもので，口唇部には刻目が見られるものである。223・224は口縁部である。223は口縁部径17.7cmを測るもので，やや外反する。口縁部に横位の貝殻刺突文を2段に施し，胴部はきめの細かい横位の貝殻押引文を施す。口唇部にはへらによる刻目が見られる。224は貝殻刺突文は無く，

横位の押引文だけである。口唇部には刻目が見られる。225～252は胴部である。いずれも，きめの細かい横位の押引文が施されるものである。253～255は底部である。いずれもへらによる縦位の沈線文を施すものである。254は底部径11.7cm，255は底部径8cmを測る。256は角筒土器である。円筒土器と同様にきめの細かい横位の貝殻押引文を施すものである。



第36図 IV類土器

Ⅲ・Ⅳ類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	類 備 考		
					内	外	石英	長石	角閃石	その他						
第 34 図	184	I-4	V	口縁部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	Ⅲ		
	185	H-7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ	SS1107	
	186	H-6	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	187	G-6	Ⅲ	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	188	H-5	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ		
	189	H-6	Ⅳ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ナデ	Ⅲ	補修孔有	
	190	H-5	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	191	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	192	H-4	Ⅳ	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ後ナデ	Ⅲ		
	193	H-6	Ⅳ	胴部	褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	194	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	195	H-5	Ⅳ	胴部	褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	196	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	197	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	198	H-5	Ⅳ	胴部	褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	199	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・押引文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	200	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・押引文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	201	H-4	Ⅳ	胴部	にぶい褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	202	H-5	Ⅳ	胴部	橙	明黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	203	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ	Ⅲ		
	204	—	—	胴部	にぶい黄橙	褐	○	○			良	貝殻刺突文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	205	H-4	Ⅳ	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・クサビ	ナデ	Ⅲ		
	第 35 図	206	H-6	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	黄褐	○	○			良	貝殻刻目・刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒
		207	I-4	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒
		208	H-5	Ⅳ	胴部	黒褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒
209		H-13	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
210		H-6	Ⅳ	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
211		I-4	Ⅳ	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
212		H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	角筒	
213		H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	暗灰黄	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
214		H-5	Ⅳ	胴部	黄灰	浅黄	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
215		I-5	Ⅳ	胴部	暗黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
216		H-5	Ⅳ	胴部	浅黄	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
217		H-5	Ⅳ	胴部	暗灰黄	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅲ	角筒	
218		H-6	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
219		H-5	Ⅳ	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
220		I-4	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
221		H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
222		H-6	Ⅳ	胴部	浅黄	浅黄	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	角筒	
第 36 図		223	H-5	Ⅳ	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ヘラミガキ	Ⅳ	
		224	H-7	Ⅳ	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		225	H-6・7	Ⅳ	胴部	褐	褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		226	H-7	Ⅳ	胴部	暗灰黄	オリーブ褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		227	H-7	Ⅳ	胴部	明黄褐	黄褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		228	H-5	Ⅳ	胴部	灰褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		229	H-7	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
		230	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	
	231	H-7	Ⅳ	胴部	にぶい黄	浅黄	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	232	H-7	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	233	H-5	Ⅳ	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	234	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄	にぶい橙	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	235	H-5	Ⅳ	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	236	H-5	Ⅳ	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	237	H-5	Ⅳ	胴部	黒褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	238	H-7	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	239	H-5	Ⅳ	胴部	褐灰	黒褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	240	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	241	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	242	H-7	Ⅳ	胴部	黒褐	灰黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	243	H-5	Ⅳ	胴部	明黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	244	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	245	H-5	Ⅳ	胴部	黒褐	暗褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	246	H-5	Ⅳ	胴部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
	247	H-7	Ⅳ	胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ		
248	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ			
249	G-7	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ			
250	H-7	Ⅳ	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ			
251	H-5	Ⅳ	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ			
252	H-7	Ⅲ	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文・沈線文	ナデ	Ⅳ			
253	I-4	Ⅳ	底部	オリーブ黒	にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文・沈線文	ナデ	Ⅳ			
254	H-4・5	Ⅳ	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅳ			
255	H-7	Ⅳ	底部	にぶい褐	オリーブ褐	○	○	○		良	貝殻押引文・沈線文	ナデ	Ⅳ			
256	H-5	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻押引文	ナデ	Ⅳ	角筒		

V類土器（第37図～第48図）

V類土器は、全形は円筒形で、口縁部に貝殻刺突文、胴部に貝殻条痕文を施すものである。口縁部の器形、文様、胴部の条痕文、底部の刻目等により細分される。

口縁部の器形では、外反するものと外傾し直行するものとで大別される。文様では、貝殻腹縁による刺突文が、横位・斜位・縦位または羽状に施されたものに分類される。胴部の条痕文は綾杉状になるものが多く見られる。

257～283は、口縁部が外反し、貝殻腹縁による刺突文を斜位に施し、胴部に条痕文を施すものである。257は、口径20cm、器高22cmを測る中形のものである。口縁部の外反は大きく貝殻腹縁による刺突文が斜位に施されており、補修孔も確認できる。

胴部には、綾杉状条痕文が見られる。258も、同様に口縁部の外反は大きく斜位の貝殻刺突文を有する。口唇部は257より厚みがあり、刻目が施されているのが特徴である。胴部には綾杉状条痕が施され、口径は18cmを測る。259は口径16cm、260は19cmを測り、共に257・258ほど口縁部の外反は著しくなく、斜位の貝殻刺突文が施され、口唇部には刻目が、胴部には綾杉状条痕文が見られる。261～265は、外反が緩やかで口縁部には斜位の貝殻刺突文が、胴部には条痕文が施されている。266は口縁部の外反が緩やかであるが、267はやや大きく、共に口縁部に斜位の貝殻刺突文、口唇部に刻目、胴部に条痕文が見られる。

268・269は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が、胴部には条痕文が施されている。270・271は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が見られる。

272～275の口縁部には斜位の貝殻刺突文が施され、272の胴部には条痕文、273の口唇部には刻目が見られる。276～283は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が施され、276～278及び281～283は胴部に綾杉状の条痕文が見られる。276の口唇部には刻目も見られる。281～283は、口径がそれぞれ36cm、33.6cm、26.2cmを測る大形のものである。

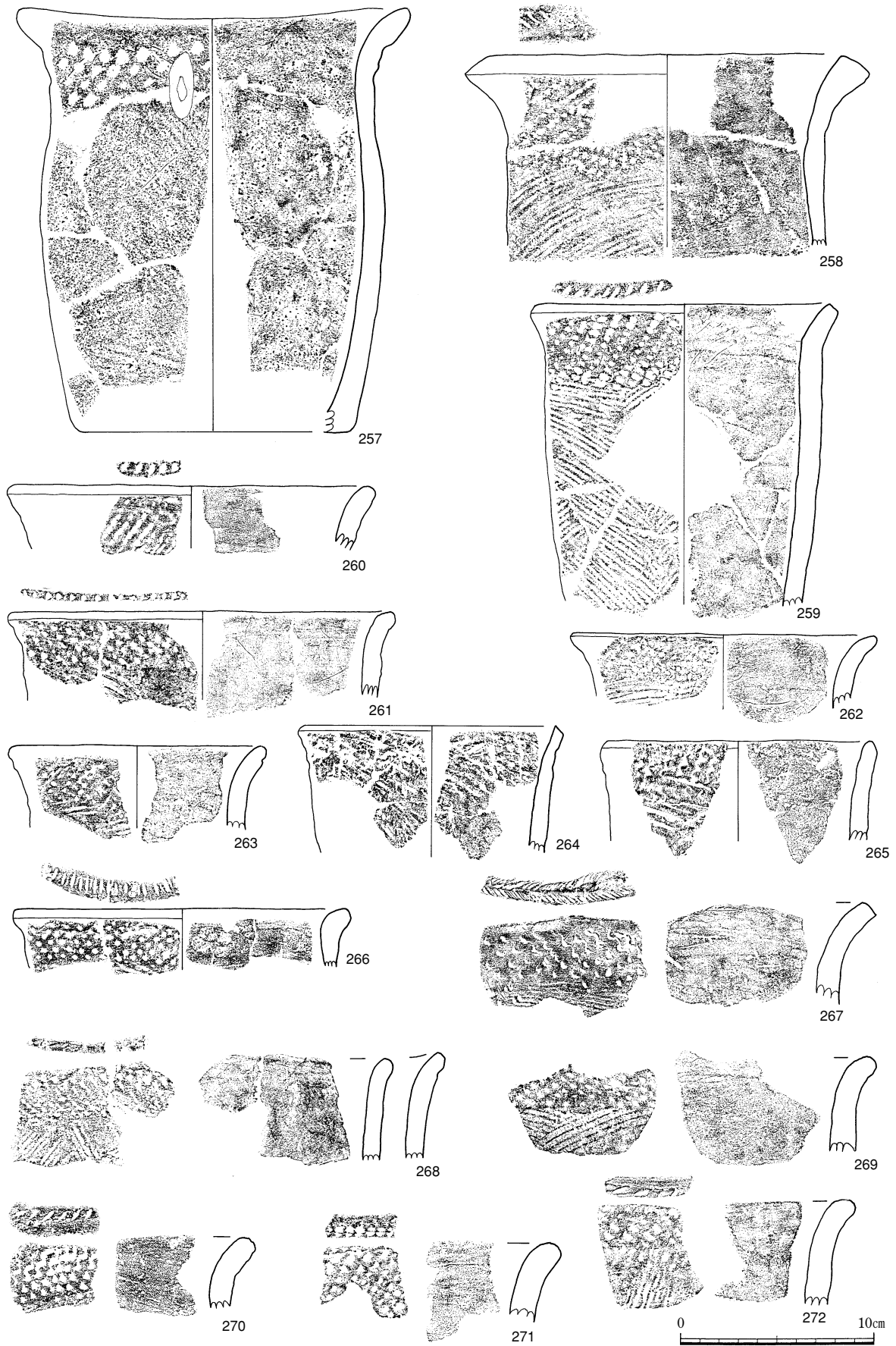
284～292は、口縁部がやや外反し、羽状の貝殻刺突文が施されているものである。284～287までは口唇部に刻み目が見られる。291の刺突文はヘラ状工具によるものと貝殻によるものとの複合模様である。

293～349までは、口縁部が外反し、多くは横位の貝殻刺突文が施され、口唇部には刻目が、胴部には綾杉状の条痕文が見られる。293は、口縁部が緩やかに外反し、横位の貝殻刺突文が施され、補修孔が確認できる。口唇部には刻目が、胴部には条痕が見られる。口径は22.5cm、器高は22cmを測る。

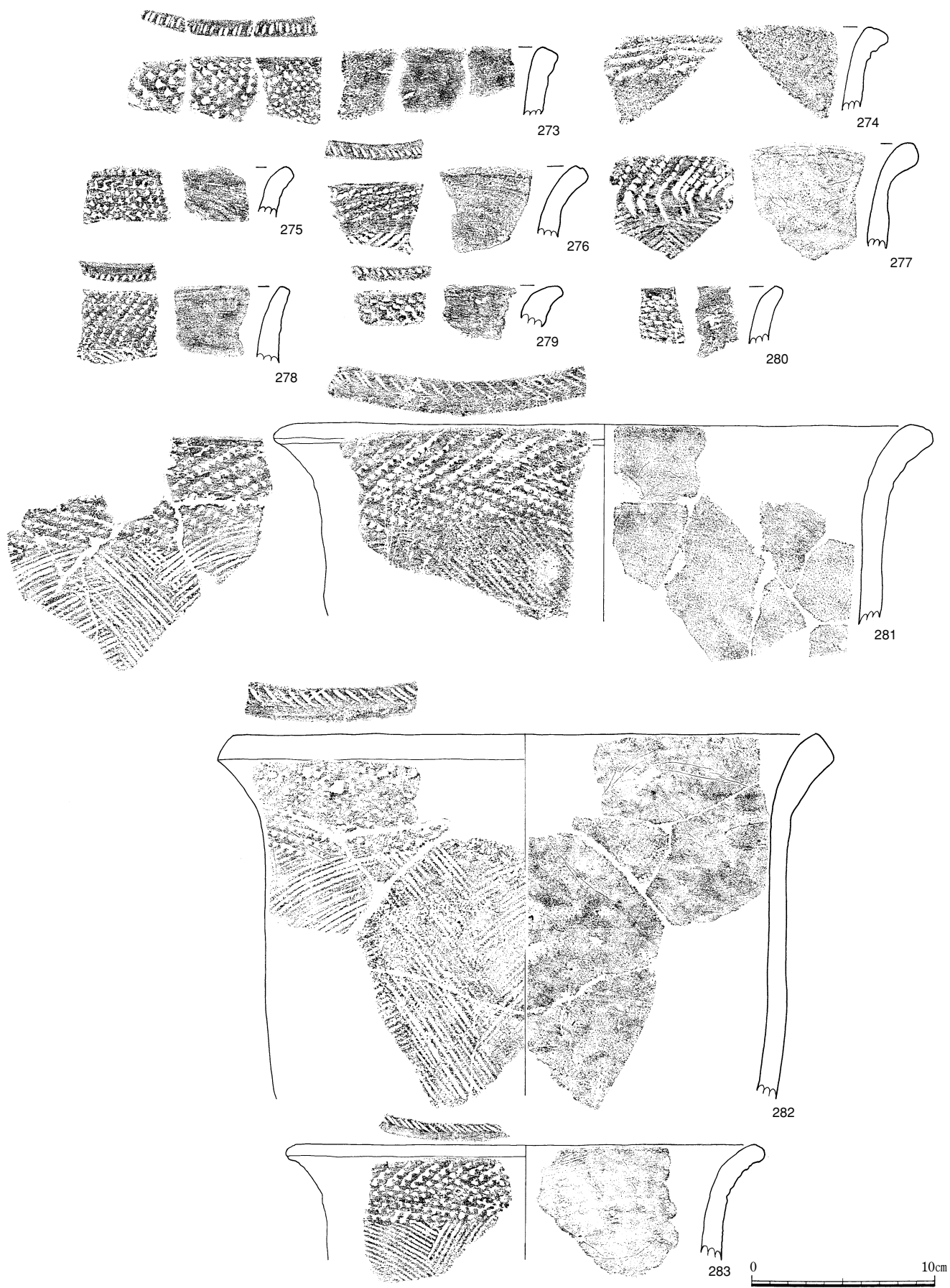
298・299、305～313は、口縁部の貝殻刺突文が横位と斜位を組み合わせた状態で存在する。315、326は、口縁部にヘラ状工具による斜位の刺突文と横位の貝殻刺突文を有し、胴部にかけて綾杉状の条痕文を施す。306、312・313は山形口縁で、突出部が2ヶ所である。327には補修孔を穿こうとした痕跡が見られる。

V類土器観察表1

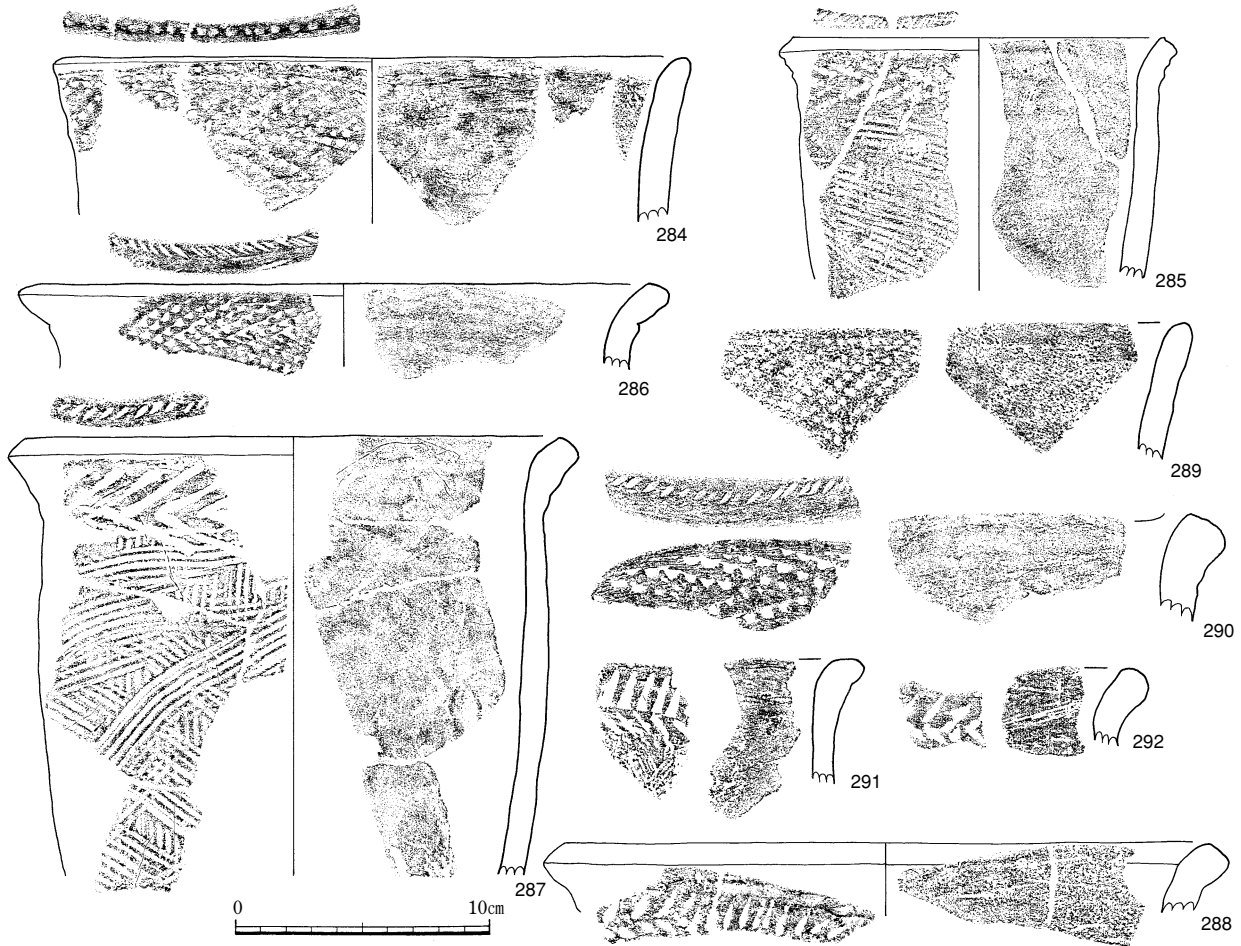
編図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面		内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第 37 図	257	H-6・7	IV	完形	橙～黒	橙～明赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	補修孔
	258	H-6・7	IV	口縁～胴部	褐	明褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	259	H-6・7	IV	口縁～胴部	黒褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	260	H-6	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	261	H-6	IV	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	262	H-7	IV	口縁部	にぶい黄褐	明褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	
	263	H-7	IV	口縁部	褐	明黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	
	264	H-7	IV	口縁～胴部	黒褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	
	265	H-7	IV	口縁～胴部	黒褐	暗オリーブ褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	
	266	H-7	IV	口縁部	暗褐	暗褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	267	H-7	IV	口縁部	褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	268	H-6・7	IV	口縁部	暗オリーブ褐	赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	269	H-6	IV	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	
	270	H-7	IV	口縁部	褐	黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	271	H-6	IV	口縁部	暗褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	口唇刻目
272	H-7	IV	口縁部	にぶい褐	暗オリーブ褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目	



第37图 V類土器 (1)



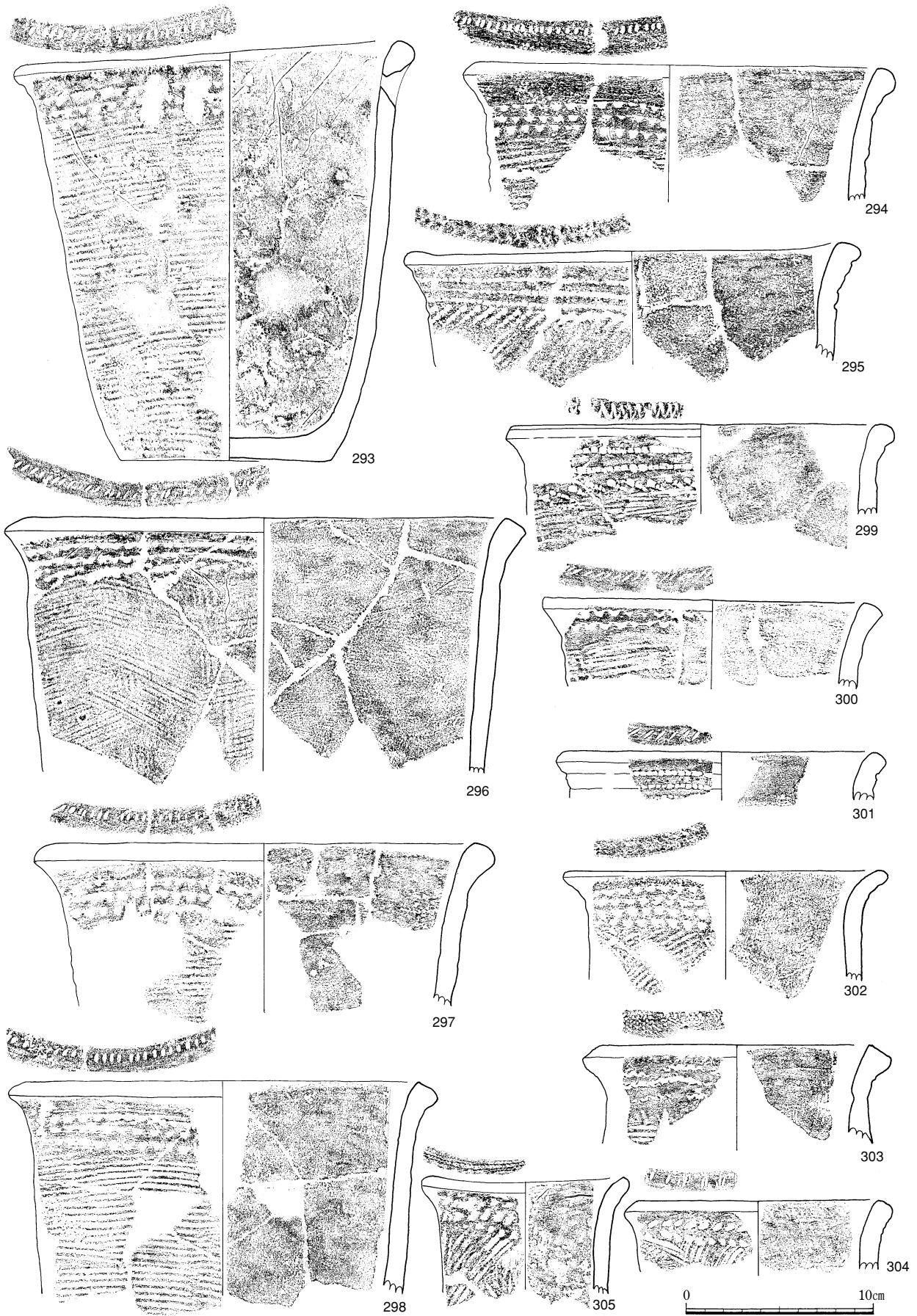
第38图 V類土器 (2)



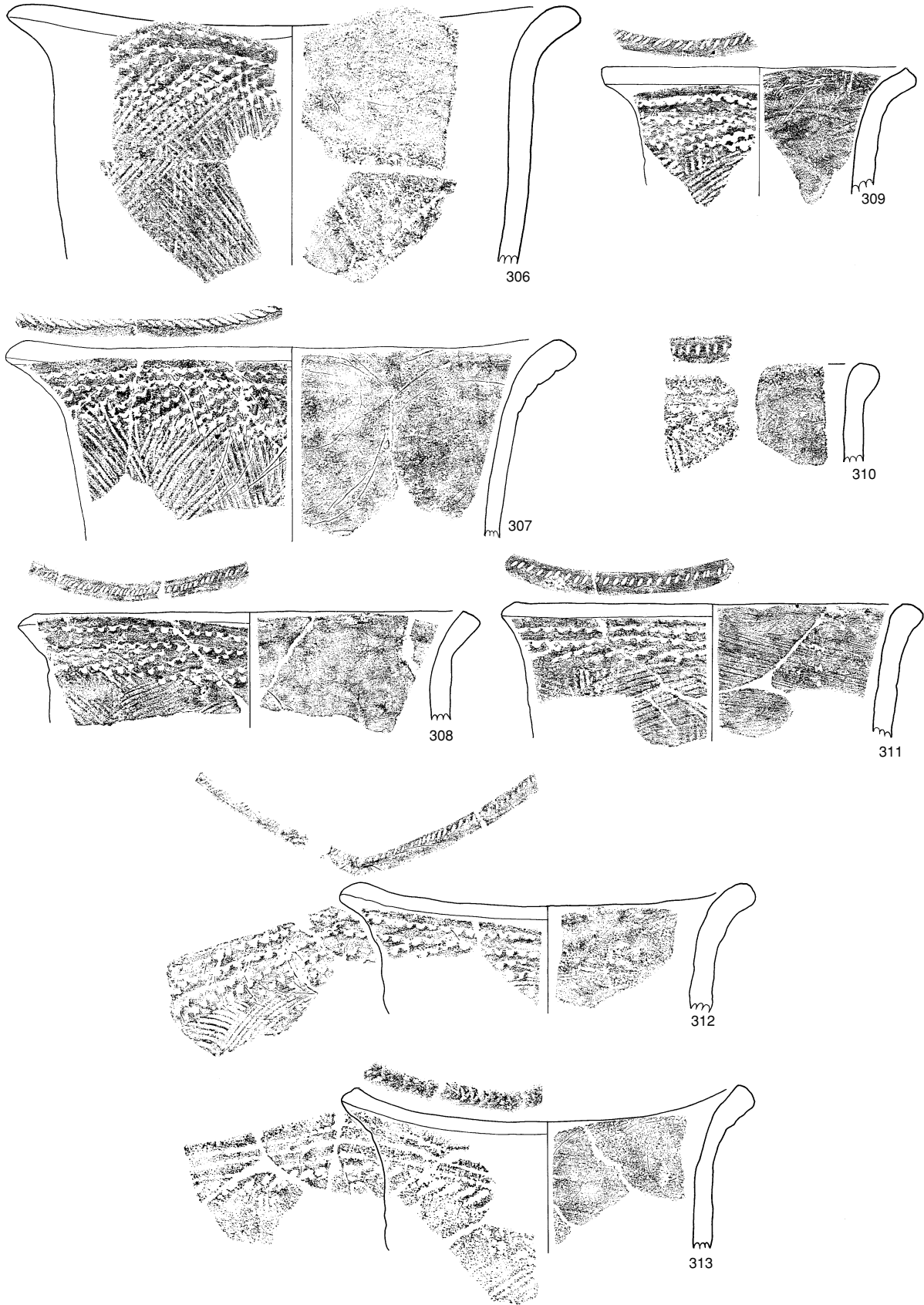
第39図 V類土器 (3)

V類土器観察表 2

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	面		備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外	内	
第38 図	273	H-6	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	口唇刻目
	274	H-6	IV	口縁部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	275	H-7	IV	口縁部	暗灰黄	オリーブ褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	276	H-7	IV	口縁部	明赤褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	277	H-5	IV	口縁部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)条痕文(綾杉状)	ナデ	
	278	H-7	IV	口縁部	にぶい褐	黄灰	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	279	H-6	IV	口縁部	褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	口唇刻目
	280	H-7	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	281	H-5	IV	口縁~胴部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	282	H-5・6	IV	口縁~胴部	褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
第39 図	283	H-6	IV	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	284	H-7	IV	口縁部	橙	褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	口唇刻目
	285	I-5	IV	口縁~胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)条痕文	ナデ	口唇刻目
	286	H-5	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	口唇刻目
	287	H-5・6	IV	口縁~胴部	浅黄	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	288	H-6	IV	口縁部	明黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	289	H-6	IV	口縁部	にぶい褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	290	H-7	IV	口縁部	橙	明褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	口唇刻目
	291	H-5	IV	口縁部	黒褐	褐	○	○			良	ヘラ状工具による刺突文及び貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	292	H-6	IV	口縁部	明黄褐	オリーブ褐	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
第40 図	293	H-5・6・7	III・IV	完形	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目,補修孔
	294	H-6・7	IV	口縁部	明褐	明褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	295	H-6・7	IV	口縁部	明赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	296	G-7, H-6	IV	口縁~胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	297	H-6	IV	口縁~胴部	明黄褐	明褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	298	H-4, H-6・7	IV	口縁~胴部	褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	299	I-4・5	IV	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	300	H-7	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	301	H-6	IV	口縁部	黄褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	口唇刻目
	302	H-6	IV	口縁部	黄褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	303	H-7	IV	口縁部	にぶい黄褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	304	H-6	IV	口縁部	にぶい褐	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	305	H-7	IV	口縁部	暗赤褐	暗赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目

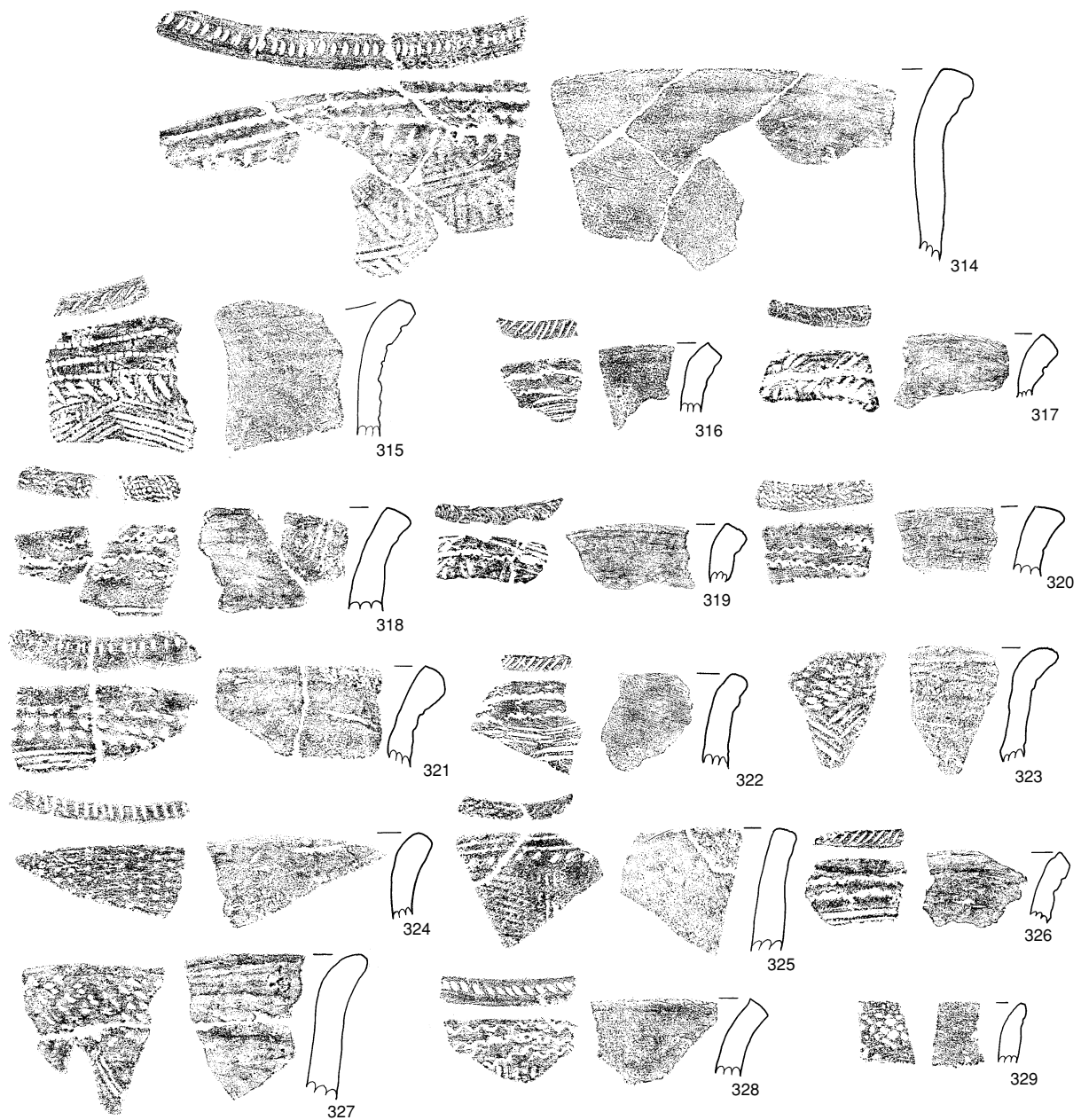


第40図 V類土器(4)



0 10cm

第41図 V類土器(5)



第42図 V類土器(6)

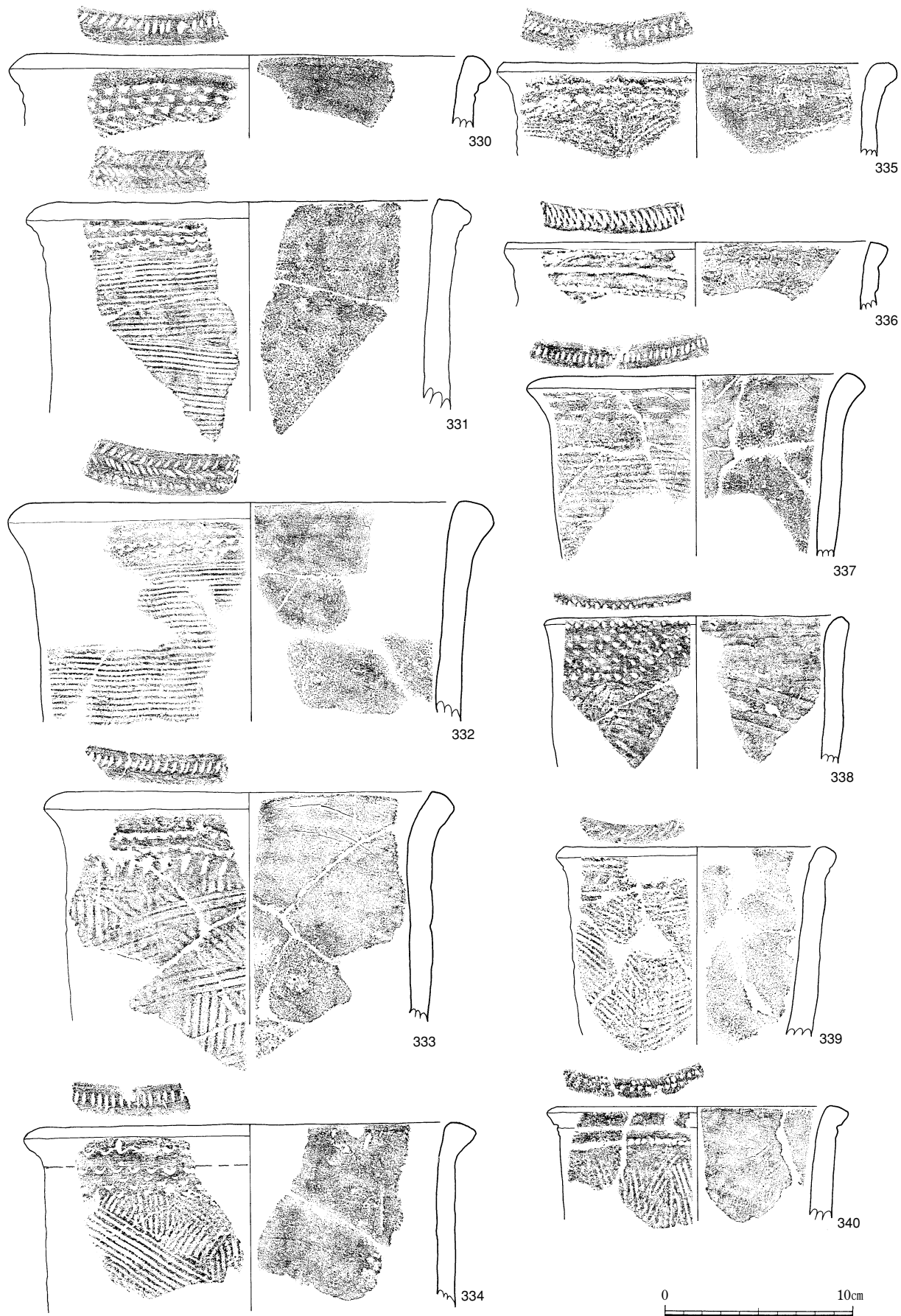
328, 330・331, 335・336には、口縁部に横位と斜位を組み合わせた貝殻刺突文を確認できる。337は、口縁部にヘラ状工具による刺突文と胴部には貝殻条痕が残る。

350～365までは、口縁部が直行し、直線的な胴部を経ているものである。350～352は、直線的な口縁部に横位の貝殻刺突文と胴部に綾杉状の条痕文を有し、口唇部には刻目が見られる。353は、口縁部に膨らみがあり斜位の貝殻刺突文が見受けられる。359の口縁部に見られる斜位の貝殻刺突文は他の刺突文と比べると特に深く顕著である。胴部に向かっては条痕文が見られ、指頭圧痕も残っている。

365は、口縁部周辺に横位の貝殻刺突文が広がり、口縁部より2cmほど隆起するコブ状突起を有するものである。

366・367は、口縁部がやや外反し、一列横位に竹管文を有する。口径はそれぞれ、27cm, 32cmと大形のものである。368・369は、口縁部に羽状の貝殻刺突文を施し、一部、ナデ消し後条痕文が見られる。368は、頸部から口縁部が急激に外反する。

370～374は、胴部から底部にかけての部位である。胴部には、綾杉状の貝殻条痕が見られ、底部外面を囲むようにヘラによる浅い5mmほどの沈線が縦位に施されている。



第43図 V類土器 (7)